

「歩く事」に関して、他の人達の取り組みを紹介して見ます。

世の中には、ヨットの太平洋横断とか、エベレスト登山とか、ギネスブックへの登録を目指して活動するなど超人的な多種多様な挑戦者がいます。

その中で、私の身の丈から見た「歩き旅」に関する皆さんの取り組みや関心の深いものを少し紹介して見ます。なお、「歩き旅」には、山のピークを目指すいわゆる「ピークハント登山」も関心はありますが、この分野・この部類は、ここでは除いて整理します。

スルーハイク（一気通貫の歩き旅）はともかくとして、数年がかりで、それぞれの身の丈に合った、計画を立て、目標を持って、継続的に取り組んで行ったら達成感・充実感を味わえるものになると思います。

=====

1. 「歴史街道・古道」歩き旅の魅力・効用

図－25 は、「五街道ウォーク事務局」の八木牧夫さん（神奈川県横浜市神奈川区）が提供した新聞記事です。ホームページを持っていますので、是非参考にしてください。

左側に「仮想ウォーク」と言うタイトルが見えますが、私が旧東海道スルーハイクをやっていた時に、同じような事に挑戦している女性がおりました。

なお、別の遊びで行った折に、八木さんの仕事を訪ねて対面しております。

21

2012年(平成24年)6月4日(月曜日)

くらし

山

开

新

+

月

第45598号

好日へのしんぴ
あとなを味わう

東海道や中山道など、旧街道を歩く人たちが増えているという。少しずつ歩き継いで踏破を目指す人や、自分好みの区間だけ歩く人、さらには、日ごろのウォーキングで「歩いたつもり」になる人など、街道歩きの楽しみ方はさまざま。

街道歩きのポイント

●自分なりの楽しみを見つける

●自分のペースで

27 街道を歩く

升谷正宏さん(72)＝神奈川県横浜市神奈川区が、街道歩きを始めたのは6年前。旧東海道

を、日本橋から京都まで歩いてみようと思いついたが、総距離は500キロ近くあり、自信がない。

途中でやめることになった。格好が悪いと、家族にも内緒にして、仕事帰りに東海道の起点、日本橋に立った。

「定年を過ぎて、2度目の再就職で大学の研究室のお手

伝いをしていきました。時間が自由になる仕事だったので、平日の午後4時に、背広にネクタイ、ビジネスシューズという、仕事のままの服装でした」

日本橋から銀座へ向かう。よく知っているはずの道だが、あらためて旅人の感覚で見ると、多くの発見があ

「日本橋の橋銘板は、徳川慶喜が書いたんだ」

「有名な書店『丸善』のものと名の前は『丸屋』なのか」

路傍の記念碑や案内板などを見つけては、道の左右を行ったり来たりして、目的地の新橋へ。わずか2・5キロだった。

「その日は、妻にも言わずじまいでした」

その後も仕事帰りに少しずつ歩き、横浜にたどり着いたところで家族に打ち明けた。

それからは、休日を利用して歩いた。前回到着したところまで電車で行って目的地まで歩き、日帰りにしていたが、自宅から遠くなると移動時間と交通費を考え、宿泊して2日続けて歩くようになった。

「1年後、京都・三条大橋

けでは飽きてしまふ。東海道を歩いた気分になろうと、歩いた距離の記録を取り始めたのは6年前の8月1日。毎日3・15キロ歩き、3カ月で京都に到達した。歩数は計79万6450歩だった。

その後は、中山道など五街道の残り4街道を半年で攻略して、シルクロードへ。西安からカシガルまでに相当する4千キロを、9カ月かけて歩いた。

このままだと12、13年後には地球一周になると楽しみにしている。

「お断り」 「就活人も必見、男磨き講座」は休みます。

事前調査で楽しみ倍に

どんな情報を調べるか。歴史ばかりではなく、お菓子や伝統食、祭り、土地の言葉、民家のつくりなど、自分の興味のある分野にした方が、無理がなくていい。

あれこれ想像しながら調べ、出掛けて行って、確認する。想像したことと、実際に目にしたことや聞いた事が同じなのか、違うのか。違うとすればなぜか。それを考えるところに楽しさがあるように思う。

特定の分野を決めて、その結果を地域ごとに並べてみると、自分なりの文化地図ができるだろう。

仲間と達成感を共有

五街道は全部歩き、東海道だけでも2往復半しました。

私の歩き方は時速6キロで、1日40キロ歩く。スポーツという感覚です。前回到達した地点まで夜行電車で行って、1日歩いて夜行で帰ることもあります。年齢や体力に合わせた自分なりのやり方がいいでしょう。

ウォーキングを始めたのは20年前。40代の初めでした。体重が増えて血圧が高

くなり、脂汗や冷や汗が出て、健康に不安を覚えたからです。

始めてからは体調が良くなり、体重も落ち血圧も下がりました。

効果を確信して、自宅周辺を歩くだけでは飽き足らず、旧街道を歩き始めたんです。

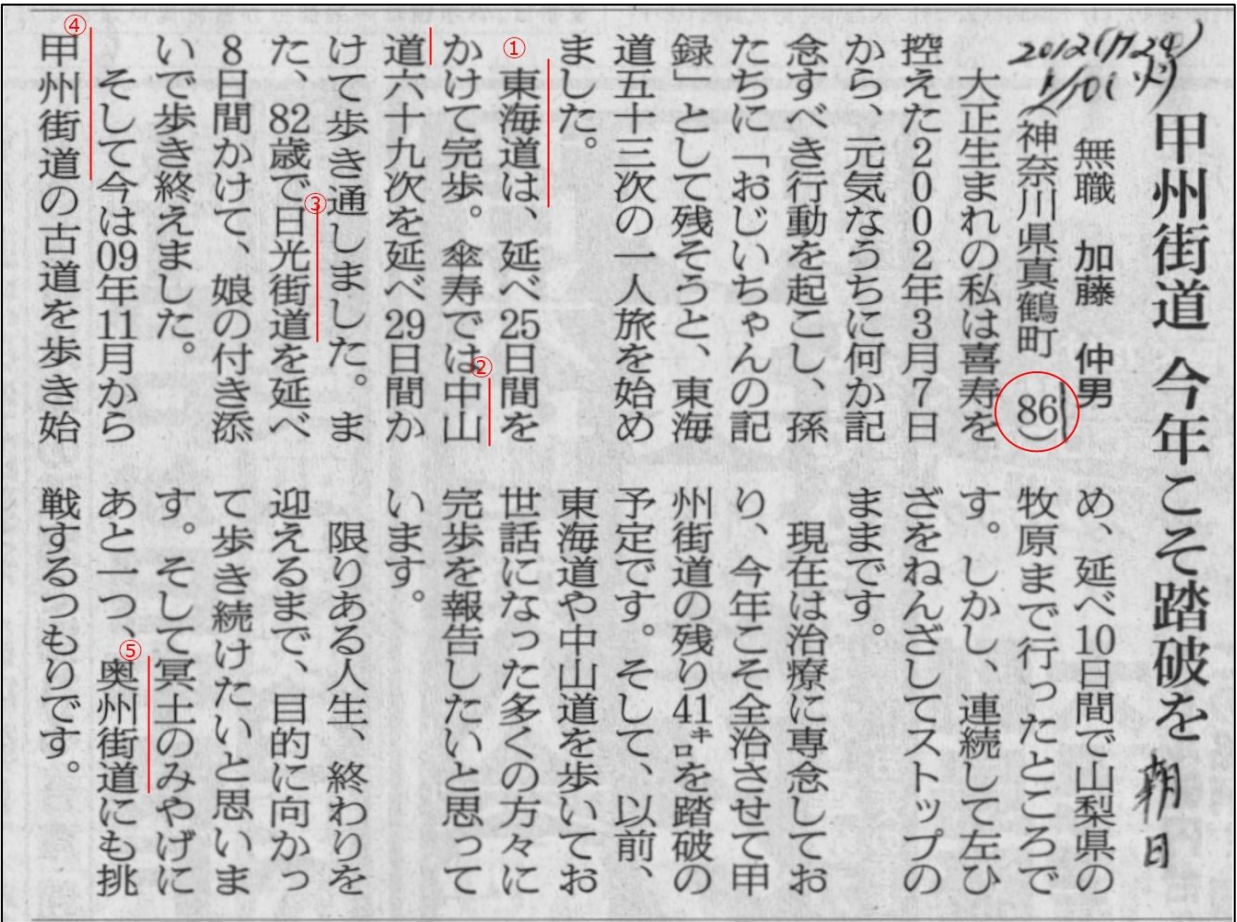
1人でもいいのですが、仲間と歩くと達成感を共有できて、いっそう楽しいですよ。

2. 「旧五街道」に取り組んでいる加藤さん（長寿の方）

図－26 は、86 歳の方の取り組みです。旧五街道の踏破に挑戦中と言う事です。この年齢には脱帽です。
最後の方にある「限りある人生、終わりを迎えるまで、目的に向かって歩き続けたいと思います。」というフレーズに元気を貰います。

図－27 表は、前記「五街道ウォーク事務局」のインターネットサイトから拝借したものに加筆しています。

総計では、1,430 km 余りになり、1 日当りの歩行距離を 25 km にすると 57.3 日、おおよそ述べ 60 日間を要する旅路となります。



図－26

街道名	基点	基点	概要	宿次	換算距離
東海道	日本橋	京都三条大橋 (大阪高麗橋)	東国と京（都）を結ぶ東海道は古来より政治的、軍事的に重要な交通路で、箱根と新居（今切れの渡し）の二か所に関所を設置し、「入り鉄砲に出女」が厳しく取り締まった。	五十三次 (五十七次)	約 492 km
中山道	日本橋	京都三条大橋	東海道は、道中には大井川、天竜川、富士川、六郷川等の渡河があり、いったん増水になると難渋を極めた為、古来東山道としてのこの道の利用度は高かった。皇女和宮の降嫁に使われた。	六十七次	約 505 km
甲州道中	日本橋	長野県下諏訪	短い街道であるにも係らず、小仏・鶴瀬に関所を設けた。	四十四次	約 208 km
日光道中	日本橋	栃木県日光	江戸幕府歴代の将軍が、第一将軍の徳川家康を祀る日光東照宮に参詣する事を日光社参と称して歩いた。松尾芭蕉（江戸時代の俳人）も歩いた。	二十一次	約 142 km
奥州道中	日本橋	福島県白河 (青森) (三厩)	陸奥を貫き現在の青森に至る日本一長い街道である。幕府の直轄は白河まであり、それ以降は仙台藩、南部藩が管轄・整備した。（右距離は日光道中分岐の宇都宮から）	十次 (白河まで)	約 85 km
図－27					

3. 小口さんの「徒歩で日本縦断」

図-28は、我が山形県白鷹町在住の小口長次さん（満66歳）の取り組みです。日本縦断にはとても憧れを感じます。

2014（平成26）年1月15日（水）18時50分頃NHK TVに出演していました。2008（平成20）年宗谷岬を歩行スタートし、2013（平成25）年波照間島にゴールの通算5年8か月ほどを掛けたようです。

1日当りの歩行距離は20（6,200÷305）km程になり、野宿（テント泊等）を基本にしたと言う事です。また、テレビの中では、一番重い時で30kg程の荷を背負ったと言うような事を話されていました。

小口さんはインターネットホームページを開設しており、拝見すると、宿泊は、バス停、道の駅、堤防サイト、JR駅、公園その他多種多様です。度胸と勇気の証です。

私よりも1歳ほど先輩なのかもしれませんが、30kgもの荷物を背負って長旅する事は、私には不可能ですから素晴らしい取り組みに敬意を表するのみであります。

なお、一度、小口さんとはお会いしております。



図-28

2013年（平成25年）12月22日（日曜日）

社会

歩いて日本縦断 完結 白鷹の 小口さん

北海道・宗谷岬から沖縄県・波照間（はてるま）島まで日本列島の徒歩縦断に挑戦していた白鷹町箕和田、無職小口長次さん（66）が今月1日、ゴールの日本最南端に到達、遠大な旅を完結させた。歩行総日数305日、総距離は約6200キロに及ぶ。気力を振り絞って念願を果たし、このほど帰宅した小口さんは「行く先々で人と出会い、心を通わせた。温かい人情に触れたこの旅を生涯忘れない」と感慨に浸る。

波照間島にある「日本最南端平和の碑」前で記念撮影する小口長次さん

11日、沖縄県竹富町

6200キロ 出会い 心通わせた

縦断計画は無人島や北方領土を除く国内の東西南北端と47都道府県を巡る内容で、小口さんは2008年4月に宗谷岬を出発。一定地域を踏破したら一時帰郷し、また歩行地点に戻り旅を再開するという手法で継続してきた。

最後の行程となる南西諸島の歩行は今年10月31日に開始。沖縄本島では平和の尊さを胸に刻んだ。糸満市内を歩いた際に

縦断計画は無人島や北方領土を除く国内の東西南北端と47都道府県を巡る内容で、小口さんは2008年4月に宗谷岬を出発。一定地域を踏破したら一時帰郷し、また歩行地点に戻り旅を再開するという手法で継続してきた。

最後の行程となる南西諸島の歩行は今年10月31日に開始。沖縄本島では平和の尊さを胸に刻んだ。糸満市内を歩いた際に

月1日、島内放送で集まった住民に県産米「つや姫」のおにぎりと玉こんにやくを振る舞い交流を深めた。その後、全行程最後の歩行に臨み、午後4時すぎに最南端の海辺に到達した。

ゴールの瞬間は「終わってしまったという切ない気持ち」になったというが、海を染める夕日、夜空に輝く北極星を見つめながら徐々に達成感に包まれた。思い出したのは出会った人たちの顔。弁当を持たせてくれた人、家に泊めてくれた人…。北海道では白鷹町横田尻出身の高齢男性が寝床や食事を準備してくれ、古里のことを語り明かした。

多くの人に励まされる一方で、逆に小口さんが奮闘する姿が触れ合った人々に勇気を与えてきた。静岡県の男性から届いた手紙には「小口さんのように頑張つて、残りの人生を悔いのないように一生懸命、何でもやりたい」とつづられていた。

挑戦を成し遂げた小口さんは「チャレンジ精神、思いやりの大切さ、平和の尊さなどを多くの人に伝えたい」と話す。旅の記録はホームページで公開中。アドレスはhttp://www.aru.kekoguchi.com

徒歩で日本縦断挑戦 小口さん

出会い糧に 歩き抜く

小口さんの最終行程基本ルート

小口さんの最終行程基本ルート

最終行程 南西諸島へ出発

北海道・宗谷岬から沖縄県・波照間（はてるま）島まで日本列島の徒歩縦断に挑戦中。2011年1月に九州南端まで踏破していた白鷹町箕和田、無職小口長次さん66が28日、最後の行程となる南西諸島に向けて出発した。31日に鹿児島県・種子島で歩行を再開する。「人々との出会いを心の糧として、最後まで歩きたい」と意気込んでいる。

小口さんの徒歩縦断は無難に約6000キロ。各都道府県、北方領土を除く国内府県で最低一つの郵便局、備前、今回はいずれも年々増加傾向にある。6月、通算10回目の全行程を終了。08年4月、記帳スに宗谷岬をスタートし、一タンクを歩行証明として定地を踏破したら一時帰郷し、また現地に戻り歩行する。11月、年4月に南西諸島に度向、切、最南端の波照間島にゴールする。全行程約

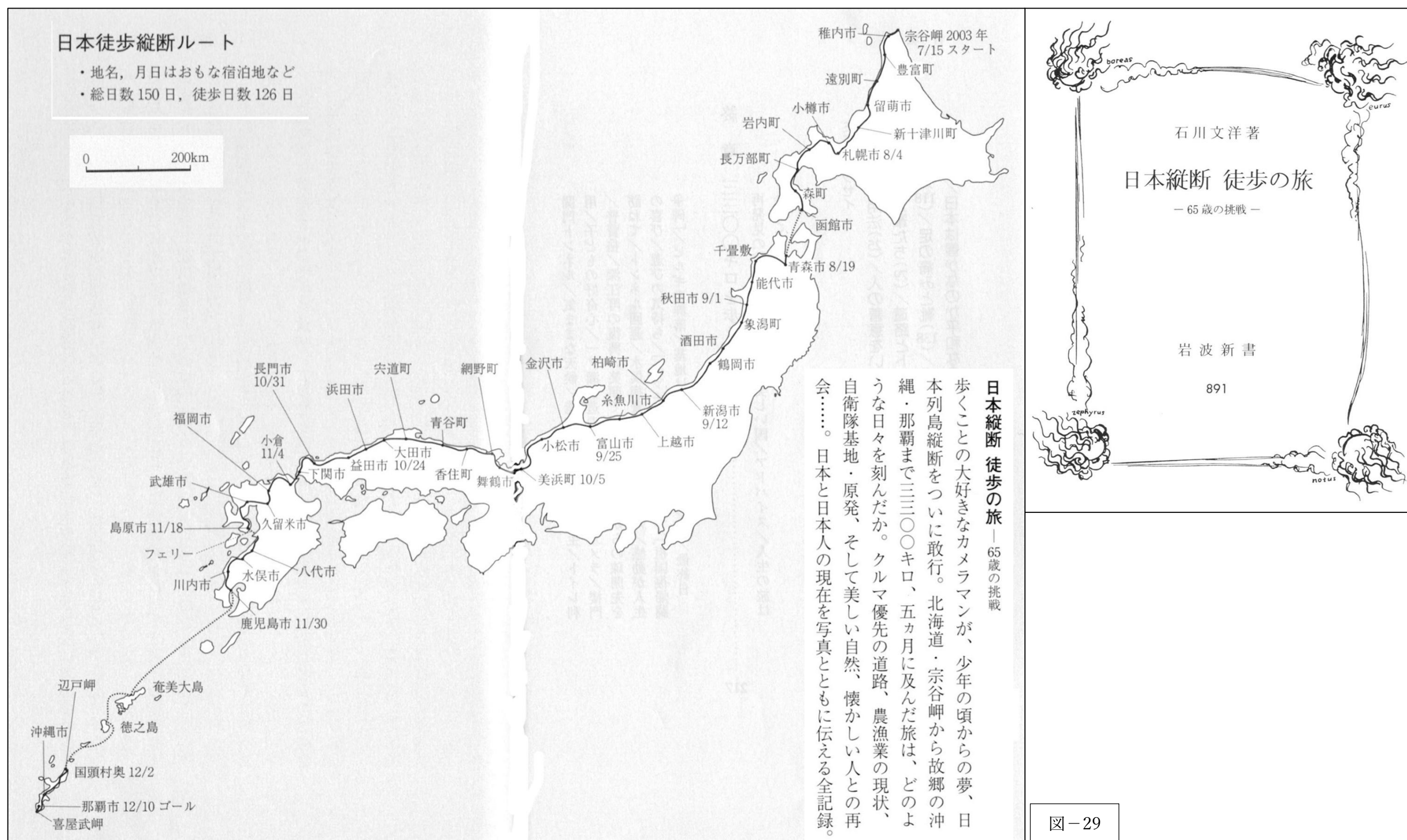
2013 (H25) 10/29 (火)

山形新聞

41(ohnuma kaoru)

4. 石川さんの「徒歩で日本縦断」

図一29は、沖縄県出身の石川さんが満65歳で挑戦した旅のルートです。その著書に依ると「一口に日本縦断といっても、太平洋沿岸、旧街道を辿る、中央部を貫通するなどのコースもある。しかし、日本海沿岸を歩くことに迷いはなかった。理由は、日本海を見ながら歩きたいと言う、これも単純な気持ちからである。」とおっしゃられています。少年の頃からの夢だったそうです。



5. 工藤さんの「街道歩きで本州縦断」

工藤さんも私と同じ趣味をお持ちのようです。

図一30の中にある「・・・足にできた血豆の痛みに苦しみ・・・」は、私と同じ悩みです。

また、記者の「小さな一步の積み重ねが大きな目標達成につながる・・・」の眼はそのとおりです。何事にも繋がる事です。

その記者のコメントに関し、私は、「旧奥州道中」を正味 2013（平成 25）年 9 月 4 日（水）日本橋スタート～10 月 1 日（火）三厩^{みんなやご}ゴールまでを 27 連泊 28 日間でスルーハイクした時の「大香ブランド老魂^{RouCom}サブタイトル」を「蟻の一穴ブレークスルー東北縦断“日本第 3 運河開通”大作戦」と設定したが、一步一步が蟻の一穴ですが、その継続・積み重ねが、結局は目標達成に為る事を実感しました。このスルーハイクのみならず、全てを通して「継続は力なり」を実感しています。

6. 新井さんの「ごみ拾いながらの日本縦断」

図一31の若い青年の新井さんの取り組みは、新しい視点だと感心しています。



図－30



図－31

7. 田口さんの「歩いて、芭蕉の奥の細道と四国八十八か所霊場巡り」

図－32 に依ると、4月中旬から10月までの半年間歩き続けて、全長4,500 kmを踏破する計画で、その実践中と言う事です。



奥の細道をたどり、庄内地方を歩いている田口義明さん
＝酒田市・山居倉庫

奥の細道たどる神奈川の田口さん

旅は「男のロマン」

庄内にも

俳聖松尾芭蕉が歩いた奥の細道など約4500^キをたどる旅を続けている神奈川県横須賀市の自営業田口義明さん(66)が庄内地方を歩いている。30日は酒田市内で観光を楽しみ、31日に秋田県にかほ市に向かう。「これぞ男のロマンだ」と歩みを進めている。

田口さんは4月中旬にJR横須賀駅をスタート。半年かけて奥の細道と四国八

この日、酒田市の山居倉庫を訪れた田口さんは、北前船など港町酒田の歴史

2014(H26)0531(土)山新

図－32

に触れ、感動した様子。いつも一人旅だが、30日から妻和美さん(65)と合流し、日本海側のルートを5日間ほど共にするという。「全国の知り合いと会いながら歩くのは楽しい。熊が出そうな山道も面白い。最高だね」と笑顔を見せていた。

8. 足峰さんの「東北徒歩一周」

図－33 に依ると、東北六県一周で1,500 kmを徒歩で踏破したとの事です。寄付金提供の志も併せて各地で趣味（仕事？）の音楽イベントを合わせて実践した事に敬意を表します。実際の徒歩ルートを知りたいものです。

2014(H26)0605(木)山新



東北6県を歩く中で寄せられた善意を手渡す足峰まさのぶさん(右) 仙台市・みやぎびっきの会

震災遺児支援で寄付

東北徒歩一周の天童・足峰さん

東日本大震災で親を亡くした子どもたちを支えるため、東北6県を徒歩で一周し各地で支援を呼び掛けた天童市在住のシンガー・ソングライター足峰(あしみな)まさのぶさん(64) 仙台市出身が4日、仙台市のチャリティーグループ

「みやぎびっきの会」の事務所を訪れ、寄付金を手渡した。

足峰さんは4月13日に山形市を出発し、福島、宮城、岩手、青森、秋田を回り5月24日、東北六魂祭に沸く山形市に戻った。1500^キ以上の道のりを歩き通し

た足峰さんは、福島市の仮設住宅で歌声を披露するなど各地で音楽を通じた交流を深めた。寄せられた善意と、足峰さんが所属するみちのくレコード(南陽市)関係者の協力を合わせた3万円をびっきの会に託した。

足峰さんは「今回の体験を通して東北の素晴らしさを再認識した。これからも東北の魅力を発信する活動

を続けたい」と語った。びっきの会は、さとつ宗幸さんや稲垣潤一さんら宮城県出身のアーティストが名を連ねる。

図－33

9. T J A R

私は、2012（H24）年9月27日（木）糸魚川の日本海岸壁からスタートし、14連泊15日目の10月11日（木）太平洋側の静岡県御前崎海辺に到達した「旧塩の道（秋葉古道）」をスルーハイクしました。

その最終盤に、「T J A R」（Trans Japan Alps Race）——日本海側富山湾を午前零時にスタートし、北アルプスから中央アルプス、そして南アルプスを越え、太平洋側駿河湾までの距離約415kmの道程を、交通機関はもちろんの事、山小屋も一切使わず、自身の足(走り、歩き)のみで1週間（+予備日1日）以内に踏破する事を目指すハードな山岳アドベンチャーレース——の存在をテレビで知りました。

図－34の「START」から「GOAL」までのルートです。

2年に1度の割合で開催しているようですが、そのホームページに依ると、次の選考基準があります。

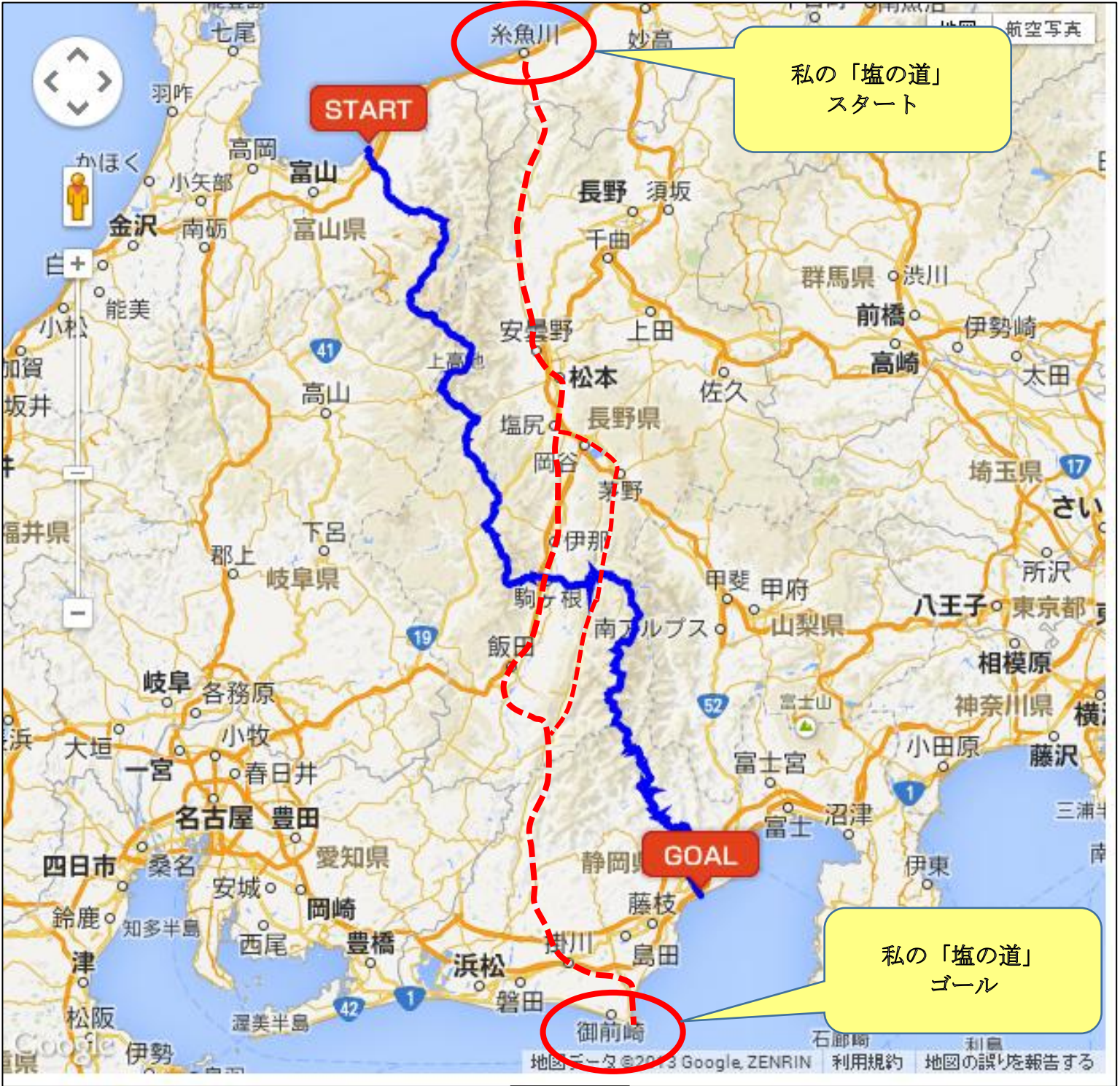
- a. 山岳フィールド／山での走力
下界／ロードに於ける走力(参加条件に準ずる)
- b. ビバーク技術
- c. 生活技術
- d. 読図力
- e. 危険予測、回避力
- f. その他

参加資格は、実行委員会の選考会に参加し、基準を満たした上で、同会の承認を得なくてはならないのです。

2012年の第6回大会の報告書に依ると、28名参加し、8日間の期限内に完走したのは18名でした。

これはすごいと思いました。それは私には到底出来ないが、私の行いは、私の身の丈・分相応で、私に似合う、私の思いを乗せた、私なりの「T J C R」（Trans Japan Codou Race）と思いました。

同図の青色ルート（実践）は「T J A R」のもので、赤色ルート（点線）は私がトレイルした「旧塩の道（秋葉古道）」のルートです。



図－34

10. 田中陽希さんのグレート・トラバース

図一35のとおりで、NHKが企画・放映した日本を代表するプロアドベンチャーレーサー田中陽希さんの「日本百名山完全人力一筆書き踏破」への挑戦です。

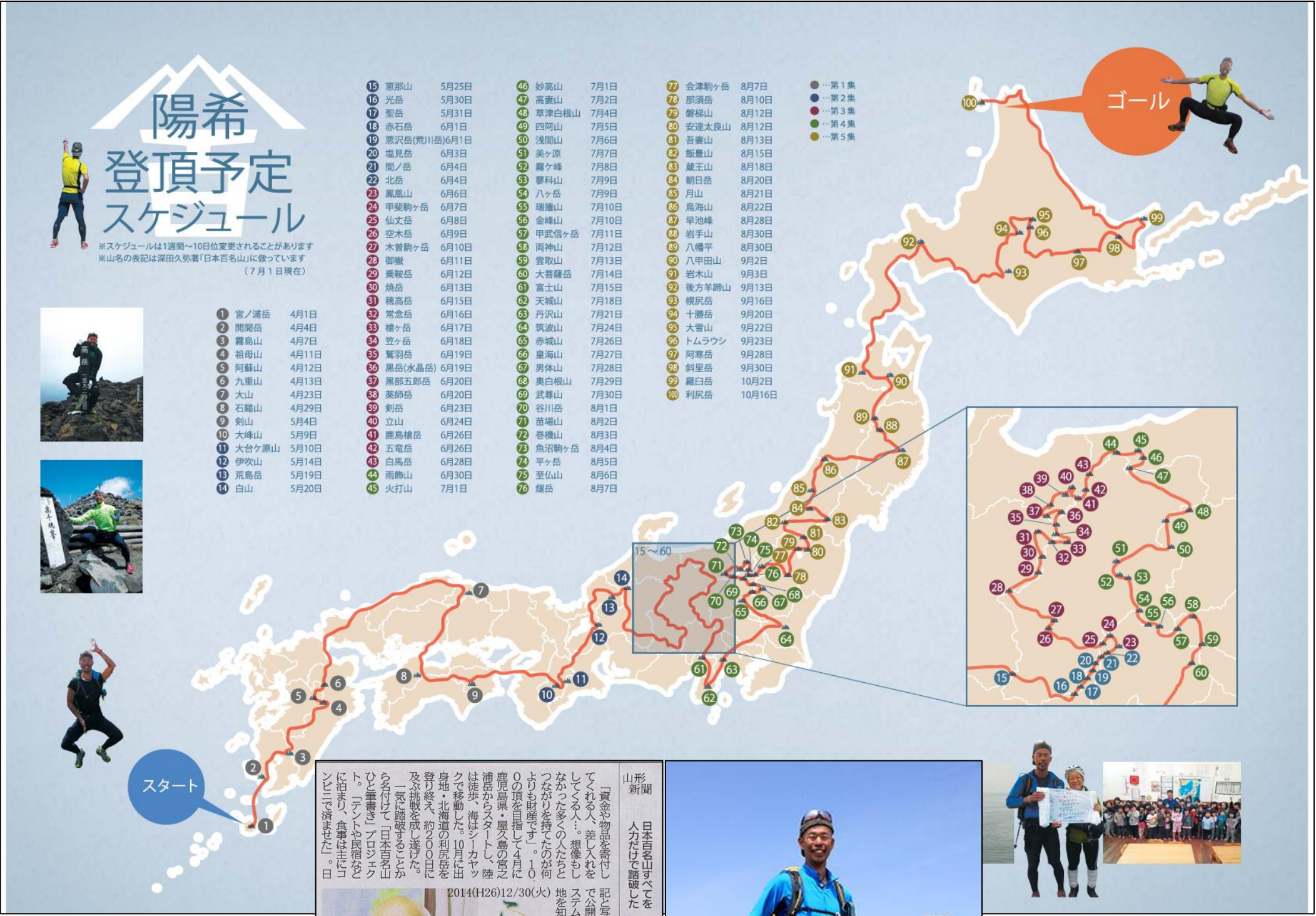
総移動距離 7,800km、累積標高差 10 万 m ! 200 日間掛けて日本百名山に人力のみ、一筆書きでチャレンジする壮大な旅のドラマです。NHKが完全密着しBSで放送しました。

深田久弥「日本百名山」が出版されてから五十年。日本百名山すべての頂を登り、その間、一切交通機関を使わず、自分の脚とカヤック（海上移動）だけで繋ぐ、途方もない挑戦だったのです。

もちろん、プロだから出来る事だと思います。

2014（平成 26）年 4 月 1 日（火）屋久島をスタートし、そして、10 月 26 日（日）利尻山にゴールしました。

拍手喝采です。衷心より祝意を表します。おめでとうございます。なんと素晴らしい快挙です！



図一35



図－36 は、自然歩道の事です。
環境省が整備しているトレイルコースです。つまり、税金を投入して整備しているのです。私は特に意識して歩いた事はありませんが、よく見ると、私が既に歩いた区間が入っています。
自然歩道については、旧五街道と同様に多くの人がチャレンジし楽しんでいるのではないかと思います。

「みちのく潮風トレイル」を踏破した体験を語る東北芸術工科大の(左から)小松大知さん、大津悠美子さん、佐藤亨さん
＝山形市・モンベル山形店



今夏、青森県八戸市から福島県相馬市に通じる太平洋沿岸約700キロの自然歩道「みちのく潮風トレイル」を二手に分かれて踏破した東北芸術工科大の学生が6日、山形市幸町のモンベル山形店で報告会を開いた。東日本大震災の爪痕に心を揺さぶられたり、息をむ絶景や温かな人情に癒やされたりした24日間を説明。旅の成果として、「東北を訪れることが土地を元気にすることにつながる」と話した。

◇
同トレイルは環境省が整備する「歩くための道」。事業を広くPRするため、同大の宮本武典准教授に相談。宮本准教授は学生が実

八戸く相馬「潮風トレイル」700キロ踏破

芸工大生が成果報告

「訪問で被災地 元気に」

津波の痕跡も見られる道に 環境省東北トレイル基本計画

環境省は21日、青森県八戸市から福島県相馬市までの太平洋沿岸約700キロを結ぶ長距離歩道「東北海岸トレイル」の基本計画を発表した。ルート設定に当たっては、優れた景観を見られる地点だけでなく、津波の痕跡や脅威を実感できる場所も通るよう配慮し、関係市町村の復興計画とも連動させた事業にする方針を示した。来年夏ごろには一部区間での利用開始を目指している。

2014 (H26) 12/10 (水) 山形新聞

実際に歩き、体験したことや感じたことを交流サイト「フェイスブック」で発信する企画「あるいて、つないで、みちになる」を提案し、実現した。

参加メンバーは同大の学生のほか教員間で交流のある東京、京都、秋田の他大学の学生を含む8人。八戸市から南下、相馬市から北上する4人ずつの2班に分かれ8月20日～9月12日、それぞれ350キロの道のりを歩いた。

報告会には同大建築・環境デザイン学科3年の佐藤亨さん(27)＝群馬県出身、プロダクトデザイン学科3年の小松大知さん(22)＝仙

台市出身、企画構想学科4年の大津悠美子さん(21)＝同大の3人が出席。約20人を前に「漁に出られない」と嘆く漁師の話や神聖な空気に包まれる高台の神社、林道を抜けた先に広がる大海原などについて、写真を交えながら報告した。

3人は長旅を振り返り、「東北の温かさに触れられた」「歩き疲れる体験は当初、非日常と感じていたが、旅を終えた今は交通手段を利用する現代の暮らしが非日常のように思える」「東北を元気にするために東北を歩く。復興支援につながる一つの取り組みといえるのではないか」などと語った。

図－36

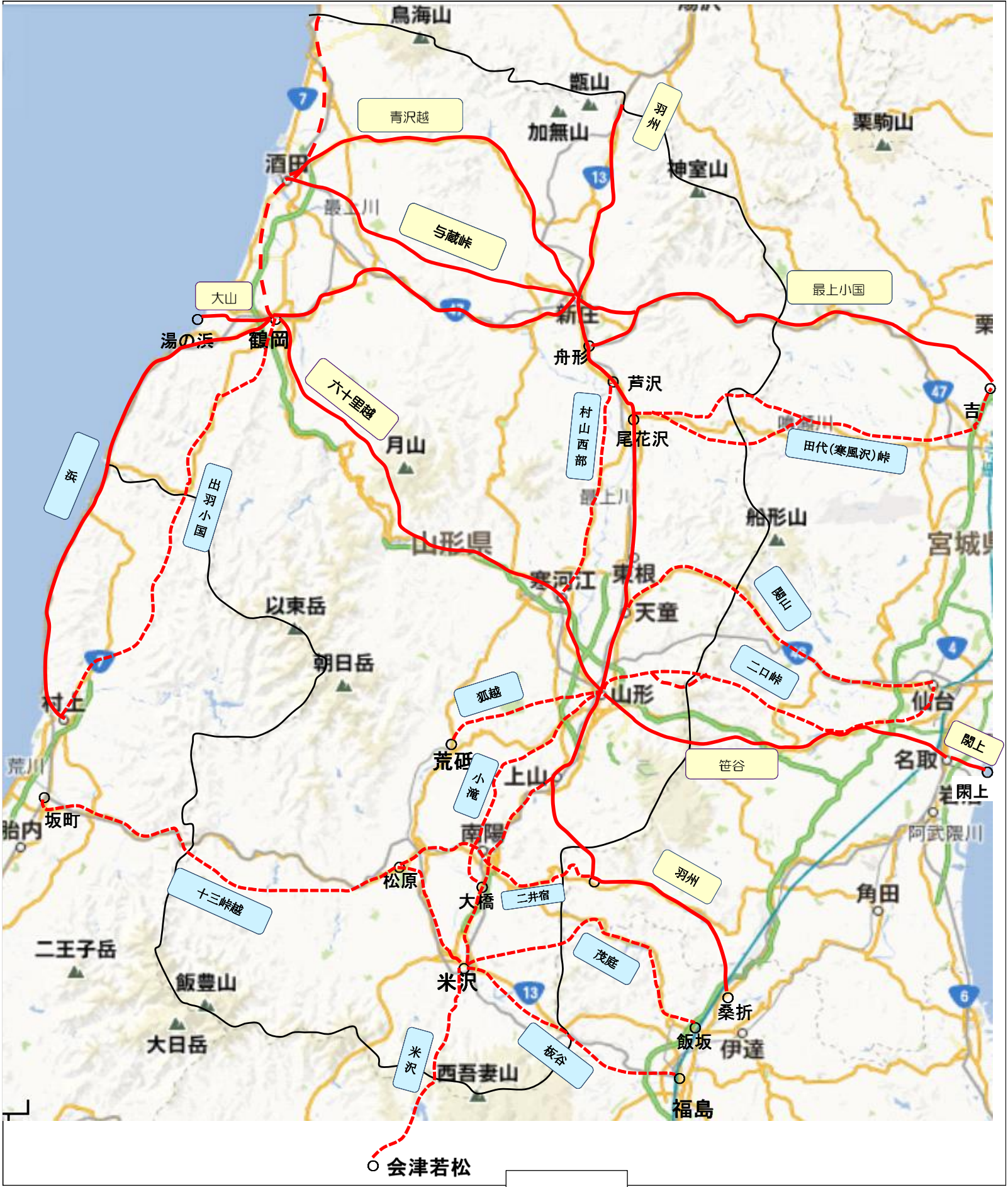
図－37 は、仙山連携事業としてのロングトレイルコースの整備を図る動きですが、とても楽しみです。余り歩かれてはいなく藪化している所もあるかと思うが、既に本ルートには登山道が通っています。私は一気通貫ではないが、全道歩いています。水場や山小屋の整備が中心になるのでしょうか。(この処は、後日追加し、差し替えたもの。)



図－37

12. 身近な山形県内・隣接県に係る歴史街道・古道

吾が郷土山形県とその周辺に繋がる歴史街道に着目してみます。図－38 は、山形県内で完結しているものと、隣接県（秋田・宮城・福島・新潟）境をまたぐ主要な「歴史街道・古道」ルートの概要です。他にもあると思うが、「歴史の道 調査報告書（山形県教育委員会監修）」に記載の主なものを掲載して見ました。実線の部分は、私が既に基点から基点までスルーハイイクした処（ルート）です。「歴史の道調査報告書」は公立図書館に完備されているはずですが。この全てに挑戦している人はいないだろうか。山形県人にとって、身近で手軽な歴史街道です。区切りながらも良いので、計画的に一つ一つ潰して行くのも楽しいのではないのでしょうか。



図－38

13. 山形県ゆかりの「3 賢人」旅ルート

図－39 は、確か「NPO法人 元気・まちネット」の何かの資料に掲載されていたものと記憶しています。

昔、山形県を通った著名な県外出身の歴史上の人物「源義経、松尾芭蕉、イザベラ・バード」の3人を「3 賢人」と称して、その歩んだルートを図化していました。これだけでは、実際は歩けないので、山形県歴史の道調査報告書に依れば、ルートを確認出来ます。

関連して私の事です、

その1：義経ルートについては、2014（平成26）年6月15日（日）京都三条大橋スタート～7月14日（月）平泉ゴールまでを29連泊30日間でスルーハイクした時に、本県内の同図ルート上を通過しています。

その2：イザベラ・バードのルートについては、2014（平成26）年9月14日（日）桑折^{こおり}スタート～9月30日（火）油川ゴールまでを16連泊17日間でスルーハイクした時に、本県内の同図ルートにおいて、上山温泉以北を歩いています。なお、新潟県境から上山までの区間は、十三峠の一部は歩いています。

その3：松尾芭蕉ルートについては、山刀切峠など部分的には歩いているが、スルーハイクは未完です。



図－39

14. 「奥の細道」の全行程ルート図

『奥の細道』とは、ご承知のとおり江戸時代の俳人「松尾芭蕉」が旅の途上で、叙情豊かに綴った紀行本であります。1702（元禄 15）年に没後、 遺言に依って、弟子の向井去来が井筒屋から刊行したものです。1689(元禄 2)年の 3 月 27 日(陽暦では 5 月 16 日)に深川にある芭蕉庵で愛弟子の河合曾良一人を連れて出立し、東北・北陸地方を回りながら、各地の弟子を訪ね、 歌枕を巡って歩き、全行程約 600 里（約 2400 km）を、日数約 150 日間を費やしたとの事です。1 日当り 16 km ほどで、短い気がしますが、これは尋ねたその地で地元の名士と交流を深め、同じ場所に連泊逗留したためです。きっと、この全行程に何年かを掛けて挑戦している人はいると思いますが、私自身もいつかはスルーハイクで挑戦して見たいものですが、夢のまたその夢でしょうが。前記「7. 田口さんの『歩いて、芭蕉の奥の細道と四国八十八か所霊場巡り』」に記載した田口さんは、どこまで踏破したのでしょうか。きっと完歩されたのかな。

図－40 の右は、「道と時代を巡る旅（東京地図出版）」より拝借したもので、全体の概要であります。また、同図の左は、「奥の細道の旅（J T B 別冊るぶ愛蔵版 46）」より拝借したものです。一部に推定の区間もあると言う断り書きはあるが、国土地理院地形図 20 万分の一にはっきりと記載しているので、歩き旅の活用には十分に耐える内容です。



図－40

15. 母なる大河最上川

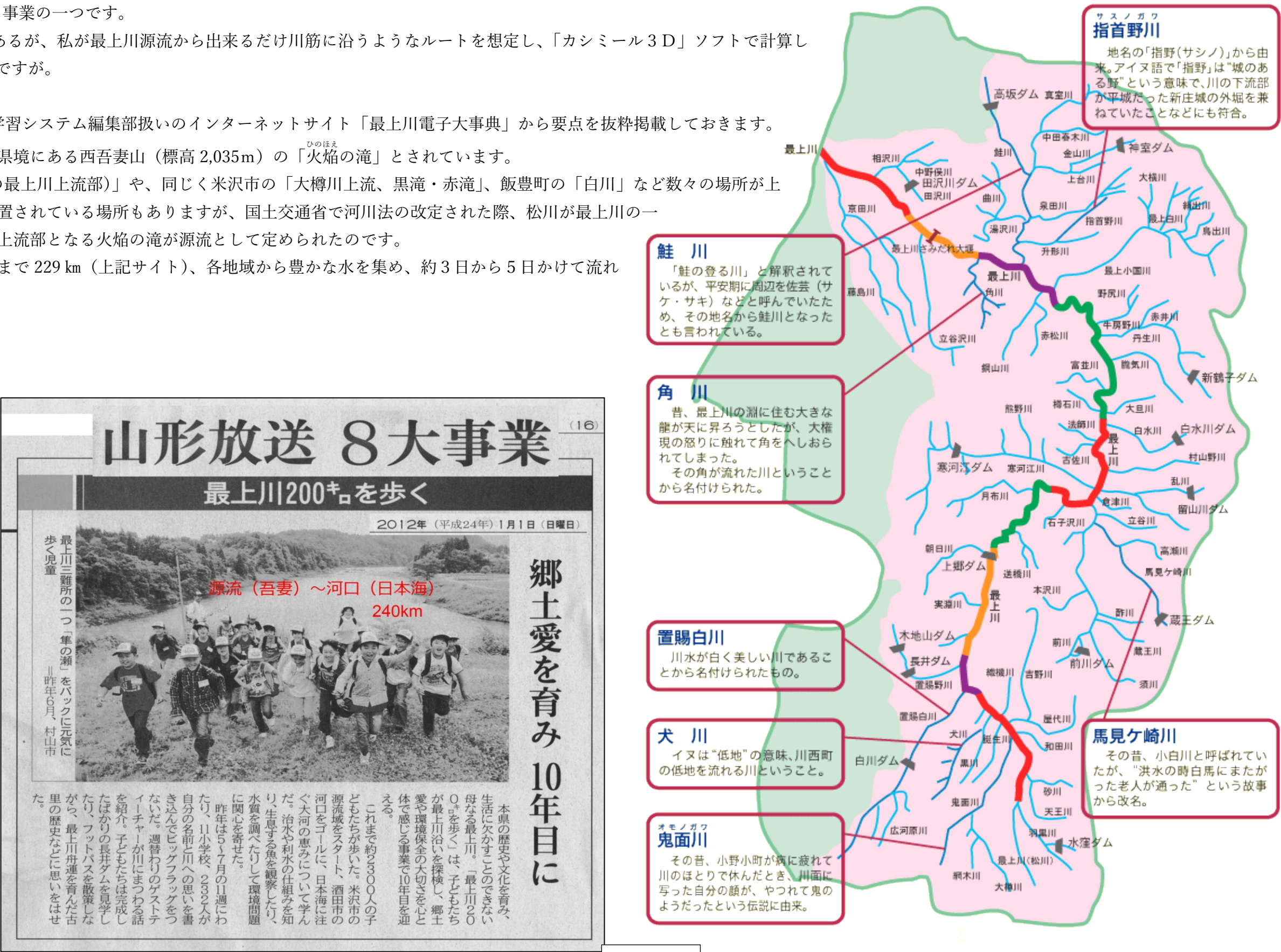
図－41 は、山形放送が実施している事業の一つです。
新聞記事には、「最上川 200 ㌾」とあるが、私が最上川源流から出来るだけ川筋に沿うようなルートを想定し、「カシミール 3 D」ソフトで計算したところでは、240 km 位はあるようですが。

参考に、山形河川国道事務所 河川学習システム編集部扱いのインターネットサイト「最上川電子大事典」から要点を抜粋掲載しておきます。

最上川の源流は、山形県と福島県の県境にある西吾妻山（標高 2,035m）の「^{ひのほえ}火焰の滝」とされています。

源流説として米沢市の「松川（現在の最上川上流部）」や、同じく米沢市の「大樽川上流、黒滝・赤滝」、飯豊町の「白川」など数々の場所が上げられています。最上川源流の碑が設置されている場所もありますが、国土交通省で河川法の改定された際、松川が最上川の一つの流れとして名前も統一され、その上流部となる火焰の滝が源流として定められたのです。

最上川は源流から酒田市にある河口まで 229 km（上記サイト）、各地域から豊かな水を集め、約 3 日から 5 日かけて流れて行きます。



図－41

山形放送 8 大事業 (16)

最上川200㌾を歩く

2012年（平成24年）1月1日（日曜日）

最上川三難所の一つ「雫の瀬」をバックに元気に歩く児童

源流（吾妻）～河口（日本海）
240km

郷土愛を育み10年目に

本県の歴史や文化を育み、生活に欠かすことのできない母なる最上川。「最上川200㌾を歩く」は、子どもたちが最上川沿いを探検し、郷土愛や環境保全の大切さを心と体で感じる事業で10年目を迎える。

これまで約2,300人の子どもたちが歩いた。米沢市の源流域をスタート、酒田市の河口をゴールに、日本海に注ぐ大河の恵みについて学んだ。治水や利水の仕組みを知り、生息する魚を観察したり、水質を調べたりして環境問題に関心を寄せた。

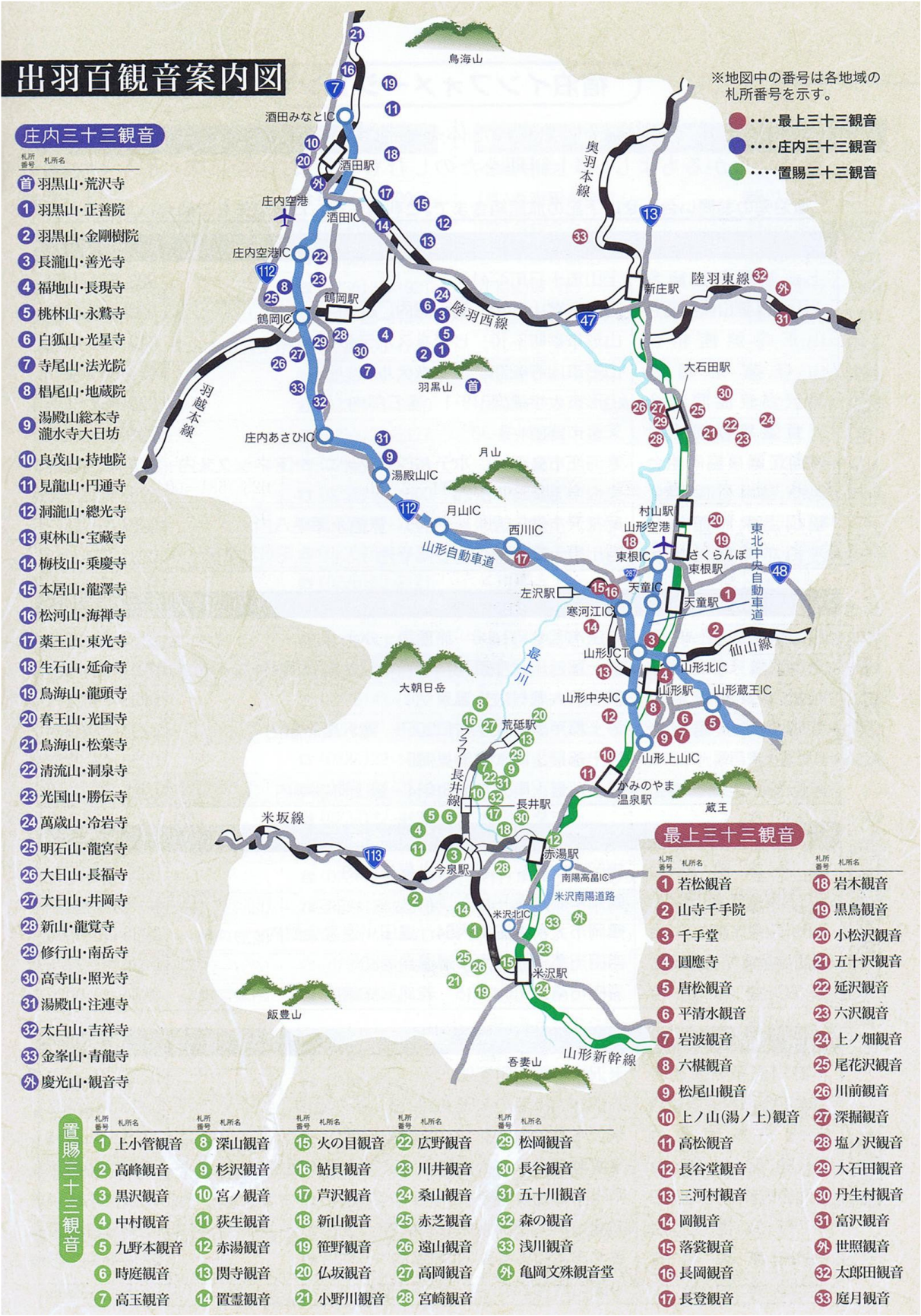
昨年は5月7月の11週にわたり、11小学校、232人が自分の名前と川への思いを書き込んでビッグフラッグをつないだ。週替わりのゲストティチャーが川にまつわる話を紹介。子どもたちは完成したばかりの長井ダムを見学したり、フットパスを散策しながら、最上川舟運を育んだ古里の歴史などに思いをはせた。

16. 出羽百観音霊場

四国八十八か所（四国遍路）霊場巡りや西国三十三観音巡礼も良いのですが、足元の吾が山形県内には、最上・庄内・置賜の3個所（各三十三観音）を合せた出羽百観音霊場（番外含めて百か寺）が整えられています。

図－42 は、著者の後藤博氏自ら山形県内出羽百観音を歩いた経験を通して纏めた本の抜粋です。

著者の歩いた実績から所要日数と1日当り歩行距離を算出し、下部表に記載して見ました。



図－42

出羽百観音

最上三十三観音

庄内三十三観音

置賜三十三観音

改訂版

やまがた巡礼ガイドブック

後藤博 著・みちのく書房 編

後藤 博 出羽百観音歩き巡礼全行程

霊場名	巡礼期間	歩行距離数
最上三十三観音	平成 5 年10月11日～ 10月20日	318キロ
庄内三十三観音	平成 6 年 5 月18日～ 5 月29日	273キロ
置賜三十三観音	平成 6 年10月16日～ 10月23日	199キロ

歩行総距離数 790キロ

巡礼霊場	所要日数	1日当りの歩行距離
最上三十三観音	10日間	31.8km
庄内三十三観音	12日間	22.8km
置賜三十三観音	8日間	24.9km
-----	30日間	-----
(私の想定)	30日間	約25km

17. 四国八十八か所霊場遍路（+別格20霊場）

図一43 は、四国遍路の札所と標準ルートです。

昔からの庶民の憧れの霊場巡りと言えば、「四国遍路（四国八十八か所霊場巡り）」です。弘法大師空海が修行道場として開創した道であり霊場であります。

八十八の数の由来や意味については諸説ありますが、一般的には次の二つです。

一つ目は厄年説です。88=42（=男の厄年）+33（=女の厄年）+13（=子供の厄年）

二つ目は「米」節です。「米」の字を分解すると八十八に見え、米寿（長寿祝い）の由来と共通します。

ルートの距離は、定まったものではありませんが、古道の道筋を辿って、標準的には1,200 km～1,400 km程と云われています。1日平均25 kmで歩けば48日～56日間程を要します。

年間の巡礼者数は、10万、20万、30万人とも云われるが、定かでは無いとの事です。その中で歩き遍路は数千人から5千人と云われています。

弘法大師空海は、宝亀5（774）年、四国讃岐国多度郡屏風浦（現：香川県善通寺市→75番札所）で生まれ、承和2（835）年3月21日、61歳で高野山に入定し、今も生きていますと信仰されています。

同大師に纏わる信仰や伝説に基づいて開かれた寺々は、八十八か所霊場以外にも沢山あり、別格霊場は中でも同大師とご縁の深い寺院二十か寺が結集した霊場です。別格霊場はすでに八十八か所の巡拝を終えた方が改めてこの二十か寺を巡り、合せて百八か寺とし、人間の百八煩惱を滅する事に繋がると云われています。四国霊場巡りは、願わくは、旅に先立ち高野山に参り、旅の安全を誓い弘法大師様との同行二人を乞い、四国八十八か所と別格二十か所の合計百八か所霊場を巡礼し、結願（満願）の後、再び高野山を訪れてお礼参りをし、弘法大師様とお別れの儀式を執り行いたいものです。

なお、図一44の楕円で囲んだ（赤字）所が別格霊場で、その他の寺は八十八か所です。



図一43

四国霊場



图-44

18. 日本百観音霊場（西国・坂東・秩父）

西国三十三か寺（近畿2府4県と岐阜県）・坂東三十三か寺（関東1都6県）・秩父三十四か寺（埼玉県）を総合した日本を代表する百か寺の観音霊場です。特に西国三十三観音霊場についてですが、徳道（得道）上人によって開創され、花山法皇が中興したと云われる観音巡礼道場で、さらには天台宗門系の人々により整備されて来たと云われています。

子安講・観音講などの展開の中で、
幼子連れの若夫婦が巡礼・参拝に訪れ
る事が多いと云われています。

図-45 の西国観音霊場は、昔からの「歴史街道・古道」を辿ると、標準的なルートは2,200 km程になると云われています。1日平均25 kmで歩けば88日間ほどの3か月近くを要します。

図—46 の上は坂東、下は秩父の観音霊場位置の概要です。

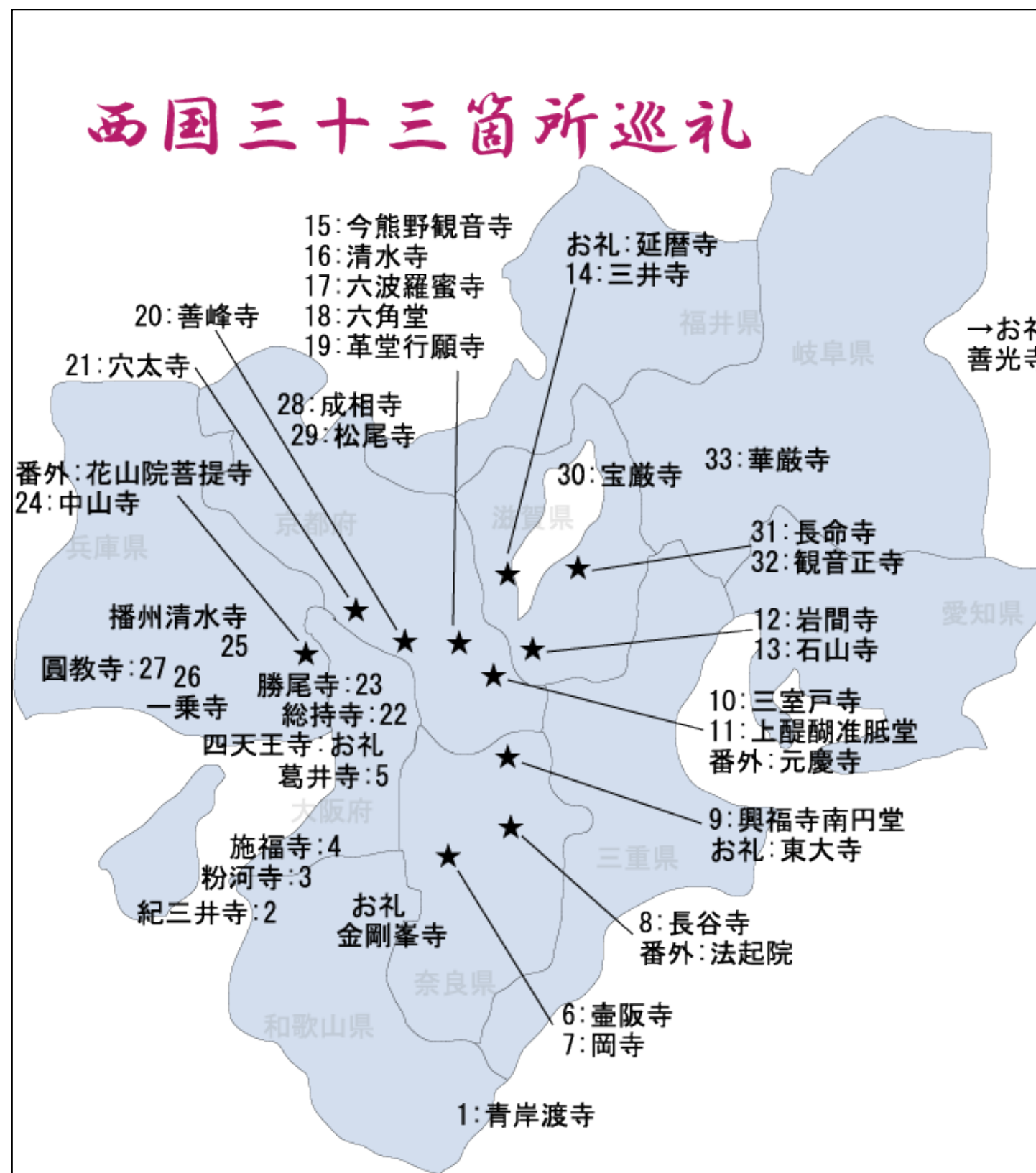


図-45



図-46

図一47は、ロングトレイルプロ級の人達が憧れるアメリカの3大ロングトレイルコースを踏破した斎藤さんの取り組みです。私から見れば、冒険家の範疇です。図一48は、有名な冒険家大場満郎さん（山形県最上町出身）の取り組みです。世界で初めて、北極海・南極海の両極単独歩行横断を成し遂げました。

2013年（平成25年）12月28日（土曜日）

社会総合

山形新聞

コンチネンタル・デバイド・トレイルを踏破、全米三大トレイル踏破に成功した斎藤正史さん＝7月、米モンタナ州

全米で最も過酷なトレイル踏破

斎藤さん(山形) 3冠

日本を6月3日に出発、同7日（現地時間）にカナダ国境のグレンジャー国立公園から旅をスタートさせた。全米を代表する三大トレイルのうち、最も過酷といわれるのがCDT。挑戦するのが年間50〜60人程度と少ないためコースが整備されておらず、道なき道を歩くような場所が多かったという。

米国の中西部を南北に踏破するコンチネンタル・デバイド・トレイル（CDT）に挑戦していた上山市四ツ谷2丁目の斎藤正史さん（40）が約4千キロの行程を歩き切り、帰国した。2005年に東部のアパラチアン・トレイル、12年に西部のパシフィック・クレスト・トレイルを踏破しており、これで米国でも数少ないとされる「トリプルクラウン」を達成した。

山間部は標高3700メートルにもなり、山に入れば1週間も誰にも合わず1人で黙々と歩く毎日。3キロの間に300〜400本の倒木が横たわるような場所もあった。天候も不順で、9月中旬にコロラド州で降雪に見舞われ、膝上までの雪の尾根をラッセルしながら越えた。夜間の気温はマイナス15度にもなり、背負っていた水は屋敷すぎまで凍ったままだった。

メキシコ国境のゴールに到着したのは11月8日。斎藤さんは「過酷なトレイルだったが、幸せな時間だった」と5カ月の長旅を振り返り、充実した表情を浮かべた。友人と共にNPO法人「山形ロングトレイル」を設立し、県内にロングトレイルをつくる活動も本格化させている。来年はニュージーランドに向かい、約3千キロを歩きたいという。「世界中のトレイルを紹介したい」。夢はさらに広がっている。



図一47

冒険家 大場満郎さんの経歴

経歴	
1953年	山形県最上町満沢にて農家の長男として生まれる。
1973年	家業の農業を父から引き継ぐ。世界の農業に興味を持ち、中国、ヨーロッパ、アフリカの農業を視察。29歳まで農業に従事。
1983年	冒険旅行を兼ねてアマゾン河6000kmを筏で下り、アマゾン周域の農業を視察。
1985年	グリーンランド西海岸1400km単独歩行。
1986年	北磁極往復900km単独歩行。出発到着基地レゾリュート。
1987年	カナダ北極圏2000km単独徒歩行。
1989年	冬期シベリア、カトウニ川200km徒歩行。
1991年	6月〜10月 環境音楽家のポール・ウィンターの農場に住み込み、無農薬野菜の栽培を行う。
1992年	国際隊によるカナダ・ハードソン湾西岸犬ぞり訓練。
1994年	ロシアからカナダへの北極海単独徒歩横断挑戦（第一回）。到着地ノードハント島（カナダ最北端）
1995年	北極海単独徒歩横断挑戦（第二回）
1996年	北極海単独徒歩横断挑戦（第三回）
1997年	北極海単独徒歩横断挑戦、北極点を通してカナダ側へ到着、成功。
1998年	グリーンランド内陸氷床でノルウェー人からパラセールを学ぶ
1998年	カナディアン・ロッキーにて雪上パラセール訓練
1999年	南極大陸単独徒歩横断挑戦、南極点を通して海岸線付近へ至り成功（ギネスホームページに掲載）。世界で初めて、両極単独歩行横断を果たした。
2000年	4月〜6月「北磁極をめざす第一回冒険ウォーク2000」スタート 若者10人を組織して4月中旬レゾリュートを出発（北極圏への旅を実施。環境教育の一環として、氷河、山、野生動物等を観察。）
2001年	そして、2000年 6月3日『99植村直己冒険賞』受賞 5月「アースアカデミー・大場満郎冒険学校」スタート！
2002年	8月「小学生と東海道500kmを歩く旅」、ズームインSUPERで放送。12月〜2003年1月、「真冬の冒険合宿」決行！ズームインSUPER！で放送。
2003年	冬の冒険 みちのく180キロの歩き旅（ズームインSUPER!）12月27日出発。冬休み、全国から集まった7人の小学生が壮大な冒険に旅立ちました。山形県の最上町をスタート点に、最上川、羽黒山、日本海などをめぐりながら180キロ先のゴールを目指す歩き旅...
2004年	5月、地球縦回り一周の旅、第一弾「グリーンランド縦断」に成功 地球縦回り一周の旅、第二弾「カナダ北極圏の旅」に向けて準備
2005年	地球縦回り一周の旅、第二弾「カナダ北極圏の旅」3月〜4月にかけて実施。5月に帰国。
2006年	7月「大場満郎とゆく おくのほそ道 新発見」を行う。現在、地元山形の冒険学校にて、次回の冒険に向け準備中。

図一48

第十五部 「歴史街道スルーハイク遊学紀行」道中で浮かんだ替え歌

歩いていると6根（眼・耳・鼻・舌・身・意）が刺激されて様々な雑念・妄想が横切ります。また、日々の日常生活の中で喜怒哀楽に塗れる心が刺激されて、諸々の感情が沸き上がります。その時々を思いを短歌や、そして「7・5」調四十八文字の和讃などの詩に創作しています。短歌あるいは俳句の文語文法を格別勉強した訳ではなく、また、花鳥風月の風流を、わび・さびを詠える、季語を織り込むような才能は無く、現代用語・しゃべり言葉を並べただけの味気ないもので、まったくの我流ですが、あれこれと浮かんで来たものを整理しています。

言葉の「5・7」、「7・5」、「8・5」調はリズム感があって、頭に浮かびやすいと思っています。

その浮かんで来た創作詩を、歌謡曲や地元は菩提寺の石行寺で習っている和讃（叡山流）の原曲をそのままに、歌詞（詩）を入れ替えて、つまり、原曲に歌詞を乗せて、いわゆる替え唄にして楽しんでいきます。現在40曲分くらいありますが、その一部を載せて見ました。

③(自然)山紫水明の山一和讃

(原曲「追善和讃」)

平調
約一分三十秒で唱える

山タハウヨ

や---ま--は ど---じ-ず たい-ぜん-と ---
 ど---ぶ-つ た---ち-が はね-まわ-り ---
 こ---ご---せ ---い-の うぶ-すな-かみ-が
 き---ぎ--の よ-そ-い-は はお-りを-まと-い

山タハウヨ

てん-く--う め ---ざ--し もり--あ が-る ---
 と ---り--も さ え-ず-り とび--まわ-る ---
 よご-れ--を た ---べ-て さん--そう-む ---
 しゅん-か--に さ ---か-え やく--じょた-る ---

山タハウヨ

そ---ら--が て-だ-す-け く ---も-を--さ--そ-い
 は---る--は さ-ん-さ-い あ ---き-は-き--の-こ
 く-さ-き-が そ---だ-つ オア-シ-ス--に--は
 あ-き-に--は い-ろ-づ-き ふ ---ゆ-は--は--だ-か

山タハウヨ

み-ずを--はぐ-く--み かわ-をう--む ---
 や-まの-めぐ-み--の ほ ---こ-な-る ---
 たい-じゅも-し ---げ-り もり-とな-る ---
 さ-んし-すい-め--い おやまのちか-ら ---

山紫水明御山の力(7・7)

(短歌)

山々は水の保水の貯水ダム 洪水調節国土を保全
 里山と中山廻り昇華して 深山に同化人の魂
 山並みは高中低を溶かし込み 境を消して大山を生む
 山並みは天地を繋ぐ魔法の手 日月誘い大地を蘇生
 色付きを欲しがる自然すすり泣く 神祇が祈り錦秋孕む

一、山は動じず泰然と(7・5)

天空目指し盛り上がる(7・5)

空が手助け雲を誘い(7・6)

水を育み川を生む(7・5)

二、動物達が跳ね回り(7・5)

鳥も囀り飛び回る(7・5)

春は山菜秋はきのこ(7・6)

山の恵みの宝庫為る(7・5)

三、光合成の生産神が(7・7)

CO₂を食べて酸素生む(7・5)

草木が育つオアシスには(7・6)

大樹も繁り森と成る(7・5)

四、木々の装いは葉織を纏い(7・7)

春夏に盛え躍如足る(7・5)

秋には色づき冬は裸(7・6)

(注1)楽譜・原曲は福聚(ふくじゅ)教会叡山流詠歌和讃音譜集に掲載

(注2)替え歌の詩(短歌・和讃)は大沼香作 2015(H27)年6月6日(土)

④(自然)山紫水明の川－和讃

平調
約一分三十秒で唱える

しみずの いってき おがわを う --- み
あらゆる も --- のの こんだくを ---
じゃまも の か --- わし くだりた び ---
じ --- ゆ --- う じ --- い --- の かわなが れ --- は

なかまを あ --- つ --- め たい --- が --- な --- り ---
あ --- わ --- せ くだ --- い --- て のみ --- こん --- で ---
であ --- い --- を も --- と --- め いの --- ち --- が --- け ---
じぶん --- で き --- め --- た み --- ち --- を --- ゆ --- き ---

み --- ず --- が う --- ご --- け --- ば おと --- こ --- ら --- し ---
か --- わ --- は な --- が --- れ --- て う --- み --- に --- で --- る ---
か --- こ --- --- で み --- --- あ --- い ペ --- ア --- リ --- ン --- グ ---
し --- か --- く --- と ま --- --- る --- と あ --- ら --- そ --- わ --- な --- い ---

とま --- った --- み --- ず --- は おん --- な --- の --- み ---
は --- ら --- え --- ど --- か --- --- み --- が と --- が --- を --- け --- す ---
ま --- み --- ず --- と --- し --- --- お --- が エ --- ク --- ス --- タ --- シ ---
さ --- ん --- し --- す --- い --- め --- い お --- が --- わ --- の --- ち --- か --- ら ---

(原曲「追善和讃」)

(短歌)

静と動両義演出川流れ 清濁飲んで大海目指す
川流れ上より生まれ中を継ぎ 下へ下へと頭を垂れる
人里に潤い授け幸を蒔く 川の母体は源流滴
水魂は岩に当たって回り込み 全周訪ね真価を探す

- 一、清水の一滴小川を生み(7・6)
水が動けば男らしく(7・6)
止まった水は女の身(7・5)
- 二、あらゆる物の混濁を(7・5)
川は流れて海に出る(7・5)
合せ砕いて呑み込んで(7・5)
- 三、邪魔もの交わし下り旅(7・5)
河口で見合いペアリング(7・5)
真水と潮がエクスタシ(7・5)
- 四、自由自在の川流れは(7・6)
四角と丸と争わない(7・6)
自分で決めた道を行き(7・5)

山紫水明御川の力(う)

(注1)楽譜・原曲は福聚(ふくじゅ)教会歌山流詠歌和讃音譜集に掲載

(注2)替え歌の詩(短歌・和讃)は大沼香作 2015(H27)年6月6日(土)

②⑥歴史街道華やか気分一歌謡曲

(原曲「長持祝い歌」)



きょう はー めでたー い
れ きしー しみいー る
じんじゃー だいすー き
じ ぜんー けいか く は

きんー びよー うー ぶ
ふるー みー ちー を
とりー いー さー ま
めんー みー つー に

えー ん がー むすー ん だ
さー んー やー をー かー けー て
おー てー らー もー すー きー よ
いー ざー ほんー ばん は

みなさ まー がー たー にー
あるき のー たー びー ー じー
におう にー えー しゃー ー くー
かめあ りー ちょー うー ー なり

このはれ すが たー みてー ー くださいー さいごま でー おや がー みとめー た
にわか の あめ とー かぜー をー さそつてー しらぬふりー てん のー めぐみー と
こうしんさま のー せき ひー せきと うー たちならぶー じんぎー しょぶつー と
いったり きた りー じゆー うー きままにー かつぼするー おれ にー にあいー の

このひとー とー のー らー てー ゆきまー すー ながー もー ー ちぶ ねー ー
たわむれー てー しー ぜー んー とー デー トー ー かるー やー かき ぶー ー
しゅうぎなー りー かたー をー くみゆー きー なんー かー ー んとー つー ー
やりかたー でー れき しー かいどー うー まんー きー つき ぶー ー

で
ん
ば
ん

(注1) 音符直下の歌詞は、「長持ち祝歌(歌唱一千昌夫/作詞・作曲;横内淳)」の1番目の歌詞

(注2) 替え歌の詩は大沼香作 2015(H27) 年6月6日(土)

一、歴史染み入る 古道を(7・5)

山野を駆けて 歩きの旅路(7・7)

青い真空も 俄かの雨と(7・7)

風を誘って 知らぬふり(7・5)

天の恵みと 戯れて(7・5)

自然とデート 軽やか気分(7・7)

二、神社大好き 鳥居様(7・5)

お寺も好きよ 仁王に会釈(7・7)

地藏野仏や 庚申様の(7・7)

石碑石塔 立ち並ぶ(7・5)

神祇諸仏と 衆議成り(7・5)

肩を組み行き 難関突破(7・7)

三、事前計画は 綿密に(8・5)

いざ本番は 亀・蟻・蝶になり(7・9)

好きな処を 行ったり来たり(7・7)

自由気ままに 闊歩する(7・5)

俺に似合いの やり方で(7・5)

歴史街道 満喫気分(7・7)

③2滝山に祝砲を一歌謡曲Ver.

Intro. 9

(原曲「祝い船」)

はれ一の かどで一の はなむけ一の
 さいぎょう ながめ一 た なきやまい一の
 たきやま の-さとに すみついい一の
 たきやま の-まちが だいうずき一の
 ひがしに れきし一の りゅうざん一の

に うたに おどりに てびょうしを きょうはめでたいく
 は やまの さくらが さきほこる みどりまぶしくり
 た もとを ただせば あのことで えんがふかまきり
 で きぼう もやして いきてます じゅうをまんきつけ
 と にし の あさひの みねみ いきをふきかけ

こころのふなで つら一 い 一のよ一の あらなみ一こえ一
 かぜそよぐそらここ一 ろ 一とびか一 う きれいな-まち一
 いまよにいきるかこ一の 一くらし一 に こだわらない一
 ストレスためずここ一 で 一のち一 を しぜんに-かえ一
 さけんでみればすが一 し 一くうき一 に に おび-かか一

て ドンとこ ぎ--だ--す い
 に えびとた い--な--ち しゅ
 で ひびこれ こ--う--じ つ あ
 す じんせい ま--ん--ぞ く よ
 る たきやま ち--い--き に しゅ

わ い ぶ ね
 く ほ う る
 ら た ま る
 い し ま る
 く ほ う る

(注1)音譜直下の歌詞は、「祝い船(歌唱-門脇睦男/作詞:千葉幸雄/作曲:中村典正)」の1番目の歌詞
 (注2)替え歌の詩は大沼香作 2015(H27)年6月6日(土)

- 一、西行眺めた 滝山は(8・5)
 やまの桜が 咲き誇る(7・5)
 (天山)
 緑眩しく 風そよぐ空(7・7)
 心飛び交う きれいな街に(7・7)
 海老と鯛放ち 祝砲を(8・5)
- 二、滝山の里に 住み着いた(8・5)
 本を質せば あのこと(7・5)
 縁が深まり 今世に生きる(7・7)
 過去の暮らしに こたわらないで(7・7)
 日々これ好日 新たまる(8・5)
- 三、滝山の街が 大好きで(8・5)
 希望燃やして 生きてます(7・5)
 自由満喫 ストレス溜めず(7・7)
 ここで命を 自然に帰す(7・7)
 人生満足 酔い痴れる(8・5)
- 四、東に歴史の 瀧山と(8・5)
 西の朝日の 峰々に(7・5)
 息を吹きかけ 叫んで見れば(7・7)
 清し空気に 虹帯かかる(7・7)
 滝山地域に 祝砲を(7・5)

③③上桜田はワンダフルランドー歌謡曲

(原曲「北国の春」)

しらかば たのしく げんきで あかるく

あおぞーら みー なー みー かー ぜ

かみさくら だー をー かー たー る

かみさくら だー にー すー まー う

かみさくら だー でー くー らー す

こぶしさく あのおかきたぐにの ああきたぐにのーはー

おもいだす むかしはたなたんぼ ああいちめん こがねい

あつまつた なつかしあころの ああはなしに はながさ

たすけあう このちをホームとし ああしごとに あそびに

きせつがーと か いで は わからない だろと

サクランボーはたーけとぶどーたなつらね

たがいのーなりわいをひろげてならべ

しょーがーいーがくしゅーのワンダフルランド

とどいたーおふくろのちいさなつーつーみあの

つちみずーほーじょーでいのちのほー(お)ーころー

くるしかつたーこともいまはーわらえーるあな

あいさつとえーがおがあふれるまーちーでいろ

(※)てん

ふるさとへかえろかなかえろーかかな

そーせいがゆいをくみひらけーききた

たーのたびもわたしごとなみだーぐむ

んーなひととおしゃべりをにぎやーかにか

(※)ちがみまもるユートピアかみさーくらだ

一、楽しく上桜田を語る(4・10)

思い出す！昔は棚田^なんぼ(5・9)

(あ)一面黄金色(2+9)

サクランボ畑と葡萄^{ぶどう}棚連ね(9・8)

土水豊稔^{つみずほじょう}で命の宝庫(9・7)

老壮青^{ろうそうせい}が結^{ゆい}を組み拓^{ひろ}け来た(7・5・5)

二、元気で上桜田に住まう(4・10)

集まった！懐かしあの頃の(5・9)

(あ)話に花が咲く(2+9)

互いの生業^{なりわい}を広げて並べる(9・8)

苦しかった事も今は笑える(9・7)

あなたの人生^{たのび}も私事^{わたくしごと}涙ぐむ(7・5・5)

三、明るく上桜田で暮らす(4・10)

助け合う！この地をホームとし(5・9)

(あ)仕事に遊びにも(2+9)

生涯学習のワンダフルランド(9・8)

あいさつと笑顔^{あふ}が溢^{あふ}れる街で(9・7)

色んな人とおしゃべりを賑^{にぎ}やかに(7・5・5)

(※)天地が見守るユートピア上桜田(8・5・6)

(注1)楽譜直下の歌詞は、「北国の春(歌唱一千昌夫/作詞：

いではく/作曲：遠藤実)」の一番目の歌詞

(注2)替え歌の詩は大沼香作 2015(H27)年6月6日(土)

④1旅はうれし・楽し！－歌謡曲

(原曲「旅にでませんか」)

たパあけあ
あー
こすそ

びにでませんか
ンフをならべ
ちらのやしろ
しきもいけど
なたとわたし
は

まをーはなれ
こにーいきた
かみのーなま
こちらーのお
こっちーにい
く

いすひとと
ートをもとめ
ふうなてら
てきなかざ
ちらのかた
は

たびにでま
マッブをひ
えんぎとろ
おいしいも
おすきな
ところ

かてめ
んげつ
のへ

きでし
ょロひ

とえゆっく
なばをさし
んなな
まともか
ウキ

いゆめ
ゆか
はす

でめ
ゆか
はす

ゆめ
ゆか
はす

おの
おの
おの

や
おの
おの

ど
おの
おの

き
おの
おの

し
おの
おの

あ
わ
せ
い
ろ
に
そ
ま
っ
て
み
ま
せ
ん
か
グ
る
す
る
す
る
よ

れ
や
こ
ろ
は
と
は
そ
ま
っ
て
み
ま
せ
ん
か
グ
る
す
る
す
る
よ

と
な
ご
ろ
は
と
は
そ
ま
っ
て
み
ま
せ
ん
か
グ
る
す
る
す
る
よ

る
は
み
ん
な
で
リ
ッ
チ
に
パ
ー
ティ
ー
よ

(計画)

一、パンフを並べて ここに行きたい (8・7)
ルートを求め マップを広げて (7・8)
穴場を探しに 夢見で泳ぐ (8・7)
電車やバスとか レンタカー (8・5)
あれやこれやと 楽しくプランニング (7・9)

(デジタル世界の男・・・)

二、あちらの社の 神の名前や (8・7)
古風な寺の 縁起を問ひ詰め (7・8)
モダンな建屋の 形を評価 (8・7)
書物が道分け 見定めて (8・5)
男心は 理屈で旅をする (7・9)

(左脳)

(アナログ世界の女・・・)

三、景色もいいけど こちらのお店 (8・7)
素敵な飾り 美味しい食べ物 (7・8)
視線も買ひ物 端から隅へ (8・7)
ロマンが道分け プラブラと (8・5)
女心は ムードで旅をする (7・9)

(右脳)

(仲間)

四、貴方と私は こっちに行くよ (8・7)
そちらの方は お好きな所へ (7・8)
仲間とウキウキ 素敵な時間 (8・7)
日中は気に召す 華園に (8・5)
夜は皆で リッチにパーティーよ (7・9)

(注1) 音符直下の歌詞は、原曲「旅にでませんか」(歌唱-葵ひろ子/作詞・作曲; 世久 遊) の1番目の歌詞
(注2) 替え歌の詩(短歌・和讃)は大沼香作 2015(H27)年12月4日 (金)

④5われらが祝宴物語—歌謡曲

(原曲「月山」)

で わ さ ん ー ざ ん の ー お ね ず た い く も も い
 ひ が し に ー り ゅ う ざ ん - そ び え た ち に し に は
 や ま か わ ー こ え る ー こ の み ち を に ち げ つ
 こ こ ま で ー た え た ー が ん ば り や ふ と く て

の り ー を だ い て ー と ー ぶ ろ っ こ ん ー し ょ う じ ょ
 じ ょ う ど ー の パ ノ ラ ー マ ー よ が っ さ ん ー あ さ ひ
 ほ し ー が て ら し ー て ー る し ょ (お) ぎ ょ う ー む じ ょ う
 な が ー く い き た ー も ー う こ の み の ー ち し お

う な や み ー は す て ろ み ー や ま ー う す ゆ き
 へ つ ら な ー る み ね と み な か ら ー し み で る
 の い く た ー の こ と と よ る ず の ー ひ と と の
 の な が れ ー る さ ま に ま ん だ ら ー コ ス モ の

や さ し ー は な に す が た か さ ね る お ふ く ろ さ ん
 ふ み の し - ぶ き が × く も に か ら ん で ひ と つ に と け
 あ い べ つ - り く は × お ん こ ち し ん を お し え る し る
 お う ぎ の - わ ざ が × き ど と あ い ら く じ ょ う ず に の せ

を そ れ が ー が っ さ ん つ き ー の や ま
 る こ こ が ー ふ る さ と い と し の せ い ち
 べ い ま も ー き ら め く ひ と よ の ど う じ ょ う
 る い の ち ー さ き は え き ぼ う と ゆ め を

(故郷—吾らが故郷風景鮮やかに)

一、東に瀧山 聳え立ち (8・5)

西には浄土の パノラマよ (8・5)

月山・朝日岳へ 連なる峰と (8・7)

皆から染み出る 文のしづきが (8・7)

雲に絡んで 一つに溶ける (7・7)

ここが 故郷 愛しの聖地 (3・4・7)

(人道—果無しこの花道は大潮流)

二、山・川超える この人生を (7・5)

日月星が 照らしてる (7・5)

諸行無常の 幾多の事と (7・7)

萬の人の 愛別離苦は (8・7)

温故知新を 教える 標 (7・7)

今も 煌めく 人世の道場 (3・4・8)

(生命—吾が命一度限りの奇魂)

三、ここまで耐えた がんばりや (7・5)

太くて長く 生き賜う (7・5)

この身の血潮の 流れる様に (8・7)

曼荼羅コスモの 奥義の技が (8・7)

喜怒と哀楽 上手に乗せる (7・7)

命 幸え 希望と夢を (3・4・7)

(注1) 音符直下の歌詞は、「月山 (歌唱—大塚文雄/作詞; 野村耕三/作曲; 小町昭)」の1番目の歌詞

(注2) 替え歌の詩は大沼香作 2016 (H28) 年5月26日 (木)

今時 2014（平成 26）年は満 65 歳、歴史街道・歴史古道の終始基点間を一気通貫（連日・連続）で歩くと言うスルーハイクの歩き旅を初めてから 5 年の節目に当たります。旧羽州街道スルーハイクを一区切りの取り組みとして終えました。全歩行実距離は約 6,952 km、1 日当りの歩行距離 31.5 km、述べ日数 221 日間になりました。1 年間当り 1,390 km 程になりました。この「歴史街道スルーハイク遊学紀行―ステージ 1」の事を閉じるに当って、この先への思いを少し含めて締め括りたいと思います。

その 1；4 原則の貫徹

「第四部 スルーハイクに臨む 4 原則」に誓いを立てて歩いて来ましたが、その事を貫き通し、さしたる怪我や病気もなく、安全な歩行で終わる事が出来ました。自宅の用事での途中打ち切りはもちろんありませんでした。これは一重に多くの皆さんのご協力の賜物と深く感謝しています。

この 5 年間のスルーハイクの全体集約は、前記に加えて次のとおりです。

- 一スルーハイクの最多歩行日数は 30 日間で 2 件（旧熊野古道と旧北奥ルート）となった。
- 一スルーハイクの最長歩行距離は 1,088 km（旧北奥ルート）となった。
- 3 年間で「旧五街道」（旧東海道、旧甲州道中、旧中山道、旧日光道中、旧奥州道中）を踏破した。

そして、自宅を守り、陰ながらの支えとなってくれた妻に感謝しています。世間では、「亭主は元気で留守が良い」では無く、それは夫に対する過去の揶揄であり、昨今は「亭主は元気で留守番が良い」と、妻達が主体的に外に出掛けようとする意思表示の戯言^{ざれごと}として流布しているそうですが、私は、それには即応していないので、喜ばれる夫ではないと思っています。

その 2；共有する仲間達

色々と歩いている中で分かって来た事ですが、国内の「歴史街道・古道」の歩き旅に挑戦している人が沢山いる事が分りました。皆目標を決めてやっているようです。一人歩きから複数での仲間歩き、一つのルートを区切って数年掛りで踏破する人などそれぞれの思いを持って実践しています。大阪市のある一人の男性（まだ、会った事はありません。）と一度、書面の情報を交換していますが、私の数倍もの距離を既に歩いています。それから多いと思うのが自転車で日本周遊している人です。時々出会います。道路の反対側でも「おっ！」と手を振ったり、会釈をするなど挨拶を交わします。同じような仲間がいると言う心強さを感じます。世の中には、過酷なレースが沢山あります。知っている主なものを列挙すると、陸上の 10 種競技、耐久競技のトライアスロン、自転車のツールド・フランス、モータースポーツの（パリ）ダカール・ラリー、T J A R（山岳アドベンチャーレース）など他にも色々あると思います。それぞれの決意と信条を持って挑戦しているのだと思います。そう言う人達が全国に散ばっているのです。

私の「歴史街道スルーハイク」は私の『身の丈アドベンチャー』との思いでやっていますが、過酷な行動に挑戦する人達と何か共有する・共通する思いがあるような気が致します。「もう一人の自分」との闘いを楽しむ人達です。国内で圧倒的に多いのは自家用車に依る旅行でしょう。私も時々やっています。道の駅で、登山口で一緒になった人達と情報交換に華が咲き、個性豊かな人生交流の場に賑やかさが加わって行きます。本書では歩き旅の動機から書いて来ましたが、初めて会う人達と顔を合わせていると、自分が「井の中の蛙大海を知らず」である事をつくづくと思い知らされます。

その 3；御縁とネットワークに感謝

歩き旅を通して、有機物・無機物を合せて様々な事物、人事万般に接して来ましたが、それらとの素晴らしい連関・縁起を感じ、網状組織（ネットワーク）の存在を感じました。図-49のイメージで、同図上は静的なもの、同下は動的なイメージです。私が六根（^{げん}眼・^に耳・^び鼻・^{ぜつ}舌・^{しん}身・^い意）で感得した物事は、極々有限なものです。その裏にはもっとももっと多くの人達と物事が関係されています。全てに感謝・感謝の気持ちで一杯であります。

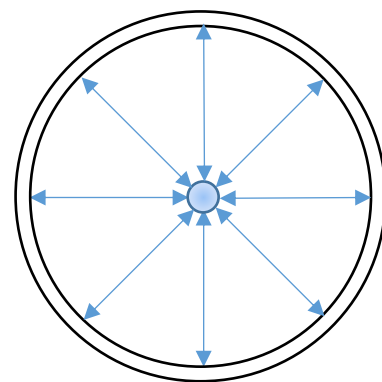
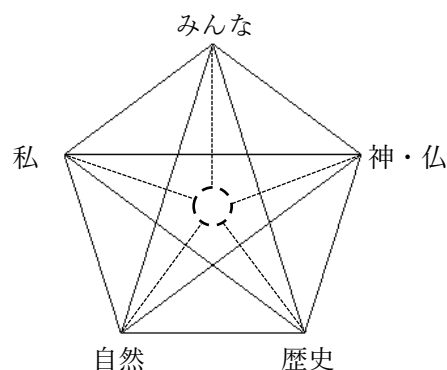


図-49

その4；吾が人生の式年遷宮

皆さんがご承知の伊勢神宮は20年毎に式年遷宮、出雲大社は60年毎に式年造替、と言う一大行事を定期的に挙行します。伊勢神宮の式年遷宮は、既存の本殿・拝殿（建物）を隣接する土地にまったく新しく建て、ご神体を新しいお住まいに遷宮します。出雲大社の式年造替は、神様を同じ境内の仮本殿に仮遷座の後に、本殿等を修復し、完了後本殿に遷座します。さて、式年遷宮の意図は奥深いものがあるが、伊勢神宮のホームページ等を参考に要約すれば、

- ①社殿等の建物を更新
- ②築造技術の伝承
- ③信仰・文化を継承し

「常に新しくあり続ける、常若の思想がある、伝統的な信仰や文化、建物などが世代を引き継ぐ事で永遠の生命を維持する」との事です。この3要素を前記冒頭部の図-1と見比べながら私に当て嵌めて考えて見ると、①については身体能力ですが、これは加齢で如何ともしがたい面はあるものの、「歩く事」を通して、老衰の加速度を小さくする事は可能です。②については頭脳作用の事です、元々児童・幼児期相当ですから、物事に対して好奇心・懐疑心が旺盛で、この自噴に従順であれば脳の衰えは無いのではないかと考えています。しかし、従順でない、つまり、自分が自分に嘘つきであれば嘘つきであるような因果応報が現れます。③については心の持ち方ですが、意識次第で何時でも澆刺とした新鮮な気持ちを持ち続けられます。吾が国の二大巨頭神社の式年の遷宮・造替に見習い、私の人生も定期的にブラッシュアップして、身の丈人生を輝かしく謳歌したいと思っています。

その5；吾が家の神棚

前記のとおり、「旧塩の道（秋葉古道）」を2012（平成24）年9月27日（木）～10月16日（火）の19連泊20日間で歩いた時の「^{ゆりあげ}閑上海岸海水（太平洋）・湯野浜海岸海水（日本海）・糸魚川姫川港海水（日本海）・御前崎海岸海水（太平洋）」の「金剛水」と、「旧奥州道中」を2013（平成25）年9月4日（水）～10月1日（火）の27連泊28日間で歩いた時の「東京湾海水（太平洋）・青森湾海水（日本海）・山葡萄果汁・三厩湾海水（日本海）」の「胎蔵水」を自宅に持ち帰ったが、それら二つを図-50のように自宅の神棚（直下に仏壇）に祀っております。この二つの潮（塩）水には特別の思い出があります。基本ベースにあるのは、普通は、茫洋とした太平洋は女、荒々しい日本海は男とイメージする人が殆どではないかと思っています。私も一目は、第一印象はそのように思います。

ここで、私が何かにと持ち出す陰陽相對（待）性原理——対は対立・反発関係、待は待つ、引合う・吸引関係からの視点です。それでは一般的な印象を表とし、この太平洋にも女（陰）と真逆の男（陽）の

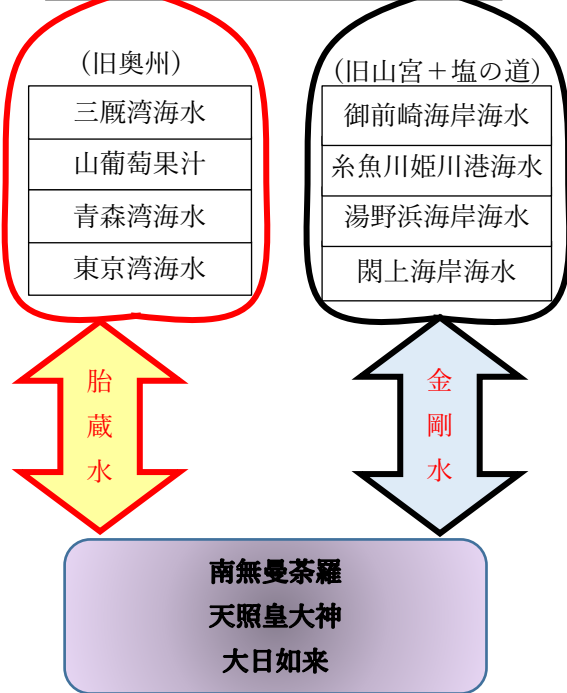


図-50

相を内包し（隠れ）ています。日本海にも男（陽）と真逆の女（陰）の相を内応し（隠れて）ています。そこで、隠されているもの、沈潜しているものを晴れの表舞台に引出す事にしたのです。私の根底に貴種流離譚・判官鼯鼠の心情が溶け込んでいるからです。もう一つは、中正化・中庸化の思いがあるからです。したがって、太平洋（女・陰）に隠遁・閑居している男（陽）を表街道に引き立て、日本海（男・陽）に隠遁・閑居している女（陰）を表街道に引き立てました。したがって、「旧山宮街道+旧塩の道（秋葉街道）」に於いては、最後に加水した潮水は太平洋の塩水ですから、男（陽）が最後を引き締めたとして、南無曼荼羅「金剛水」と呼称付けたのです。また、「旧奥州道中」に於いては、最後に加水した潮水は日本海（＝三厩湾）の塩水ですから、女（陰）が最後を引き締めたとして、南無曼荼羅「胎蔵水」と呼称付けたのであります。密教の曼荼羅金胎両部界に結び付けています。さらにその裏では、神様の天照皇大神、仏様の大日如来に繋がっていると観想しています。このように自宅にも、悪い癖である「大香ブランド老魂サブタイトル」のマイワールド観を持ち込んでおります。遊び心から密教の神仏界を吹き込んで、毎日の拝礼時に感謝を込めて拝んでおります。



図-51

その6；私に生息する我が儘三心と三蟲のコラボ共演

私の内部（自我・自己）を良く観察すると、「探求心・好奇心・冒険心」の（前者）我が儘三心と、「蟻・亀・蝶」の（後者）三蟲（三匹の夢志）が棲息しています。前者は心の持ち様・精神なのでいわずに見えないものです。後者は身体の投影物なので見えるものです。一人の歩き旅になると、その二つがトルネード・ツイスト現象、スパイラル・スィング現象（図-51）を成して、歌舞音曲を奏で浮世離れして騒々しく大活躍します。この境地は際限がないのです。これが快感となります。歩いていると、人為に束縛されない漂泊の旅人、流浪の旅人の気持ちとどこか重なるような気分になります。真の自由人になりたい、真の孤独を満喫したいという思いがあるからだと思ひます。

その7；次の楽しみ

一区切りを付けて本稿を取り纏めて見たが、歩きたい所は山ほどあります。「第十四部 多くの皆さんが夢へ挑戦」に記載した皆さんの取り組みに吾も挑戦したい！と夢が膨らんでいま

す。「はじめに」に記述したが、吾が人生の生涯に於ける次のステージの2015（平成27）年からの5年間は、「人生 Kプロジェクト ラウンドIV ㊄リプレース」の期間と位置付けており、具体的には「歴史街道スルーハイク 遊学紀行―ステージ2」と銘打って、今度はどんな事に焦点を当てて歩き旅を行おうかと思案の最中であります。

- 既に歩いた歴史街道・古道に於いては、いずれは、春夏秋冬の季節折々に、そして逆向きに歩いて見たいと言う楽しみもあります。
- 未体験の新しい歴史街道・古道に挑みたくもあります。
- しばらくは、四国八十八か所（四国遍路）や西国三十三観音、出羽百観音などの観音霊場廻りを重点的に取り組んで見たい願望があります。

その8；日々に想う事

日常の生活に於いても、スルーハイク・ロングトレイルに於いても、何かに集中する無我夢中の時間は本の僅かだけ、生きている時間の殆どは雑念・雑感が埋め尽くしていると思う今日この頃です。

締め括りを短歌にしてみました。

^{だいこう}
“大香のブランド容姿は老木に 桜吹雪で紅葉を染める”

（この老木の紅葉に、狂い咲きの桜を吹き掛けて、見栄えだけは華やかにしたいものだ、強がり自己満足しようか）

^{はな}
“この歳は洩垂れ小僧の真っ盛り まだまだまだよ修業が足りぬ”

（吾が心の、日常、日々の喜怒哀楽の乱高下、これらを自覚するに付け、まだまだ人間が出来ていない、中途半端だと思い、もっともっと精進努力をしなければならないと痛感している、謙虚謙虚に）

“毎日が命を閉じる前稽古 演ずる舞台豪華に飾る”

（残余の人生は最後の舞台で演ずるようなもの、演ずる姿は頼り無いが、雰囲気だけは立派に見えるようにしたいものだ、強がり自己満足しようか）

“問いかける吾の人生どう描く 宇宙と対話思うが儘に”

（残余の人生をどう描くか、本を読んでも、過去の成功体験を思い出しても良案は浮かばない、ましてや他人に聞くなんぞはやぼというもの、私の相談相手は宇宙なのだ）

“人生の縦糸横糸夢で編む 丸く作って花火に乗せる”

（思いのあれやこれや、矛盾も相剋もあるが、拘っていてもしょうがない、こうしたいという夢でそれらを縦横に編み、お手玉にして空高く放り出せば、ぱあっと華開くというもの。）

^{わたししん}
“内情は私心の清濁を 棒でかき混ぜダイヤモンドを作る”

（私の心の内情は煩惱塗れ、清濁・正邪併せ持つもの、これらに縛られても埒が明かない、逃げずに一層の事、どろどろにかき混ぜてダイヤモンドを作る、新しいものを生み出せばよいのだ）

図-52 は、私の歴史街道7千キロ完（貫）歩に係る山形新聞報道です。（同社において取材に応じ、記事になったもの。）

歴史街道7000^{キロ}歩く

山形・大沼さん 定年後、楽しみながら

2015(平成27)年1月21日(水)

山形新聞



これまでの街道歩きについて語る大沼さん
山形市・山形メディアタワー

山形市上桜田3丁目の大沼香さん(65)は6年前の定年を機に、本州の歴史街道を歩く旅を楽しんでいる。衛星利用測位システム(GPS)を操り、史実に基づく「正規ルート」にこだわり踏破。これまでに青森〜大阪間の31街道、約7千^{キロ}を歩き「好奇心はまだまだ尽きない」と意欲旺盛だ。

GPS操り、やぶ中を通ることも

「好奇心まだ尽きぬ」

大沼さんは定年を迎える直前、書店で偶然手にした本で歴史街道を歩き通す旅に触れてロマンを感じ、「いつか自分も」という思いを温めていた。42年間勤めた会社を退職後、本格的に計画を進め、2010年に挑戦を開始した。

東海道や奥州道中など五街道をはじめ、福島と青森を結ぶ羽州街道、熊野古道などの各ルートに、1日も休まず歩く「スルーハイイク」で挑んだ。重複した街道や数本を組み合わせたコースもあり、5年間で挑んだ区間は14。最長距離は京都と岩手・平泉を結ぶ1088^{キロ}で、民宿などを利用しながら30日間を歩き通

した。

「昔の人たちが実際に使っていた道を歩きたい」と、さまざまな資料を調べ、大まかな道筋をGPS機に入力して携行。舗装された道だけでなく、やぶをかき分けて進み、迷うこともあったが「冒険したい気持ちが強くて、困ったとは思わなかった」という。現地の人たちとの出会いも大沼さんを力づけた。

「ただ進むだけではつまらない」と、楽しみながら歩く工夫も。宮城の閑上から湯野浜を目指した旅では、スタート地点でくみ取った海水をゴールに注ぎ、「仲人」として太平洋と日本海を「結婚」させるなど、街道に関わる架空の物語を想像。任務を遂行する主人公になりきり、険しい道のりも乗り越えた。

今後は四国八十八カ所霊場や、出羽百観音霊場巡りを計画中という。「常に向上心を持ち続けたい」と、これからの挑戦に期待を膨らませている。

以下は、2015（平成 27）年 3 月 6 日（金）西川町において、学習会の際に報告・発表した時の証です。 図-53 は、その時に依頼された案内文書と、図-54 は発表の様子（写真）です。

学習会第二弾

西川町志津温泉《雪旅籠の灯り》見学と

アルゴディア苦楽歩メンバー「大沼 香氏」の

《歴史街道歩き 7 千 km のロマンを聴く会》

アルゴディア苦楽歩のメンバーに凄い人がおりました。1/21 付けの山形新聞掲載されておりました大沼 香氏（山形市在住）であります。全国の歴史街道 7000 km を自分の足で歩いたスーパマンです。是非、ねほりはほり大沼氏の浪漫話を研究会・苦楽歩のみんなで聴きたいものだと思います。下記の事業を企画しました。別添のとおり今回が第 10 回を迎える月山志津温泉の「雪旅籠の灯り」を研究会メンバー布施範行氏に案内していただく予定です。六十里越街道の旅情あふれるイベントに参加し、大沼氏のロマン話にどっぷりつかりたいと思います。

■日 時 **平成 27 年 3 月 6 日（金）** 15:00～20:00

※集合 14:30 出羽商工会朝日支所前

■場 所 **月山志津温泉「まいづるや」 TEL0237-75-2063**

■日 程 14:30 出羽商工会朝日支所前出発

15:30 歴史街道 7 千 km のロマンを聴く会

講師:大沼 香氏 ※別紙新聞掲載記事参照

17:00 雪旅籠の灯り見学（布施範行氏のご案内で）

18:00 志津温泉まいづるやの「雪旅籠御膳」を食す会

19:30 月山志津温泉発

■会 費 ・アルコール派 5000 円 ・ノンアルコール派 4000 円

※雪旅籠の灯り通行手形代（入場料）も含まれております。

■参加申込み

2 月 26 日（木）までアルゴディア研究会事務局まで FAX または下記の携帯まで連絡お願い致します。車の手配、料理等の予約もありますので必ず期限まで連絡お願い致します。**期限厳守**

●連絡先 アルゴディア研究会事務局 FAX0235-53-3582

携帯 090-1493-2075 安達 一春

090-8787-6497 小関 祐二

.....き り と り.....
アルゴディア研究会事務局【FAX53-3582】行き

《雪旅籠の灯り見学》と《歴史街道歩き 7000 km のロマンを聴く会》に参加します!

氏名 _____ 電話番号または携帯 _____

・アルコール派

どちらか〇印でお囲み下さい。

・ノンアルコール派

図-53



図-54

次のような言葉を取り上げて感想を述べ、本書を閉じることになります。

1. 日本の美

その1；「心とは山河大地なり、日月星辰なり」

曹洞宗の開祖道元が云われた言葉ですが、その心について、堀澤祖門さん（2013年12月、京都大原三千院門主に就任）の意識を参考に記して見ます。

・・・私は山であり、河であり、大地であり、太陽であり、月であり、星々である、と。それと同時に、山は私であり、河は私であり、大地は私であり、太陽は私であり、月は私であり、星々は私である、と。別の言い方をすれば、心は万物そのものであり、万物がそのまま心である、認識の主体も客体もなく、ただただ全てが“一つ”として「ある」だけ。・・・

そんな悟ったような立派な精神にはならないが、毎日毎日10時間もただただ歩いていると、“自然がいいなあ、自然はいいなあ”と思うだけになる時間が沢山ありました。私見であるが、道元はその言葉の中に次のような意図も含んでいるのではないかと思います。心とは「人」です。山河大地とは「地」です。日月星辰とは「天」です。つまり、「天地人」三才（才とははたらき・作用をいう。）の調和を込めた、「天地人」三才一体の有り様を説いた（解いた）ものではないのかと思います。



図-55

千歳栄著「心の原風景（MOKU出版）」よりは拝借の図-55は、本スルーハイク中の写真ではないが、地球からの絶大なエネルギーのプレゼント、自然が放つ神秘的で不可思議な造形の象徴として、「湯殿山のご神体」を記載しておきます。今も頂部から40数度の熱い湯がこんこんと湧き出しています。自然の力に感動します。

その2；「雪月花」

- 栗田勇氏が富士通グループの外国人経営者を対象とした講演内容を本に纏めた「雪月花の心（祥伝社新書）」において、日本文化を語る時に欠かせない自然の Symbolized keyword として「雪月花」があるとした。
- 日本人として初のノーベル文学賞を受賞（1968・昭和43年）した小説家川端康成が同授賞式において行った記念講演『美しい日本の私—その序説』の中で、日本人の細やかな美意識のキーワードとして「雪月花」を語っている。

いずれにしても、この言葉は二人の専売特許用語ではないが、日本人（大和民族）・日本文化の特徴を表す時によく使われる言葉であります。この三要素・三文字から受ける直感の印象はきれいです。

雪 ～ 真っ白いことから、純粹・清浄の例えとして賞賛され、また、白髪^{しら髪}の連想に繋がることから目出度きものと捉えられて来た。さらに、「雪は豊年の^{しるし}瑞」「五穀の精」とも言われ、雪が多く降り・積れば豊富な水が約束され豊作の前兆になるのだ、と思われて来た。前出栗田氏によれば「雪は季節の移り変わり、時間の流れを表す」という。

月 ～ 古来より太陽と対比され信仰の対象にもなって来た。月はそれ自体は光を放たないが、太陽の光を受け自転と地球周囲の公転の運行に伴い、地球から見て満ち欠けが生じることに人生訓を重ねて来た。前出栗田氏によれば「月は宇宙・コスモス、空間の^{ひろがり}拡がりを表す」という。

花 ～ 人々の日常生活に華やかさを齎^{よそ}すものとして、^{よろこ}慶び毎や悲しみ毎の冠婚葬祭の演出にも密接に係って来た。前出栗田氏によれば「花は時空にしたがって現れる存在現象の象徴といえます。」という。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

歩いていると、自然や水の豊かさ、四季の運行に伴う山紫水明の移り変わりに、花鳥風月の様相は味わい深く感動するのみでありました。図-56は2011（平成23）年の旧熊野古道スルーハイク中に出くわした所で、樹木が両側から伸びてトンネル状になり、萌える緑葉の中で、遠慮がちながらも鮮やかな赤紫色のツツジが咲き誇り、このような状況がしばらく続きました。

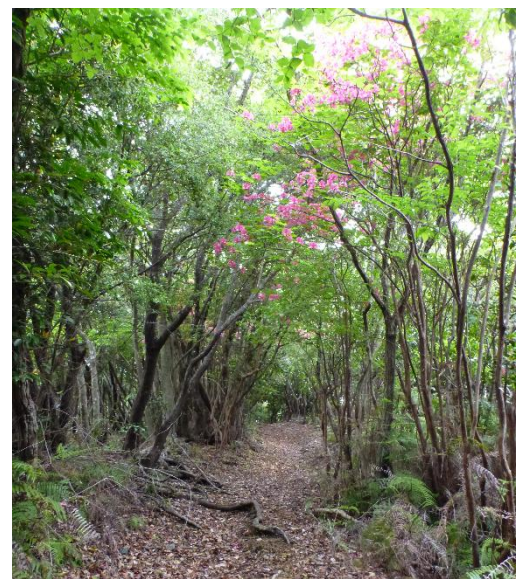


図-56

2. 「Don't Think. Feel!」 “考えるな！感じろ！”

ブルース・リー（香港の俳優、脚本家、映画プロデューサー）が映画「燃えよドラゴン」で言った有名なセリフです。この言葉の後に続きはあるが、この言葉が切り取られて広まったのです。

「三現主義^(※)」に似た響きもあるが、私の解釈・理解は次のとおりです。やりもせずに、頭の中の言葉だけを流暢に振り回す人

に対しては、理屈を捏ね回した分だけ実行してみろ！ 他人前^{ひと}での立派な言い分だけ実行してみろ！ 『有言実行・言行一致』になっていない言動はまったく価値のない空理空論だ、実践・実行しろよ！ その中で感じてみるよ！ との心の叫びです。ただし、ここでいう実行・実践とは、肉体労働の事だけではないことはいうまでもありません。他人に向かって弁じ、人々に向けて講演した、文字にしたものを配布した時の中身も問題です。既に流布している、販売されている書籍の一部を切り貼りする、他人様の聞き語りに自分の思いを^{よそ}釉^{うわぐすり}風に塗っただけなのに本物のように熱弁するのはよくあることです。がしかし、現地に行って確認したのか、現物（裏付ける古文書・書籍等）を確認したのか、つまり、それらの場面を自ら検証したのかということです。拝聴しながら「エビデンス・エビデンス・エビデンスは？」と疑問符を投げ付けております。客観的な証拠を提示出来ないものは、所詮は戯れ言^{ざご}、胡散臭い^{うさん}まがい物、心から納得されない。私は、そういうこと・そういうものに対し、頭でっかちの綺麗ごとには馬耳東風、^{うなづ}「頷き」は社交辞令の形だけです。なお、自分の頭の中で廻らすのはご自由であらせ。

余生を楽しむ中で、日常の何やかんやのしがらみ・腐れ縁に愛想が尽きます。そして、上記のようなことを学ぶ中で、湧き出す夢・願望を実現したくなります。夢を持ちては行い、行いては夢を持つ、形にしてこそ、実現してこそ夢を持ったことになる、「夢（虚仮／陰）^{こけ}と行（実存／陽）」の両者は車の両輪、表裏一体、相即不離の影の如し、です。「心・言・行」、つまり、「心（認識や精神）・言（言葉や言語）・行（行動や活動）」の統合なくして、心・言・行に意味なし」です。だから、心・言・行の統合を模索したく私は歩き旅に動き出すのです。

（※）企業経営の中で指摘される原理原則の一つに、机上ではなく、実際に『現場』に赴き『現物』を観察して、『現実』を認識した上で、問題解決を図らなければならないという考え方のことです。会議室でいくら議論しても問題は片付かない、まずは、現場に行け！というその叫びです。

さて、古道トレイルを締め括った 2014（平成 26）年は 65 歳ですが、今後、来年以降はどうするのか、思案中であります。しかし、「第十七部 新聞報道」に記載したとおり、四国八十八か所霊場や出羽百観音霊場巡りを計画中」と公言した限りにおいては、何とすれば良いのか？ 有言実行を肝に銘じています。

（完）

2014（平成 26）年 12 月 31 日（水）

山形県山形市上桜田

☎ 080-3338-3738

✉ dreamyok@hotmail.co.jp

